

生徒の生活によりそう「くらし」の授業づくりⅡ

會澤加奈子 伊東久美子 岩本 仁 小島啓治 小金井俊夫

高野 裕美 松本 晃 山本由佳 吉澤洋人 渡邊 聡

渡邊 健治（東京学芸大学） 濱田 豊彦（東京学芸大学） 奥住 秀之（東京学芸大学）

I はじめに

1 「くらし」の授業の創設

本校高等部では、平成 13 年度から独自の授業「くらし」が始まった。この授業は文部科学省の指定研究開発「個別の教育的ニーズにこたえる教育課程と授業の実践（平成 12 年度～14 年度）」の中で、新教科の試案として創設された。移行支援に関する学習は、単に進路先決定という進路指導だけではなく、高等部の学習として本人の生活全体を考慮した学習内容を準備することが求められた。卒業後の自分自身の暮らし方、さらには生き方を主体的に考え、選択し、体験を重ねる学習が独自の授業内容を持つものとして独立した授業形態をとることが必要と考えた。一方、「個別教育計画」に取り組む中で出されてきたニーズの中にも、卒業後の生活の仕方に関わる内容が多く見られたが、それらのニーズに応えるシステムが当時存在しなかったことから「くらし」が創られた。そこでは将来の生活に必要なであろう“スキル”の獲得だけでなく、適切に支援を求める力の涵養も含めた学習を目標とし、授業を創っていったところに一つの特徴があった。

2 「くらし」の授業の概要

くらしの授業は、「主体的にくらしを創造していく」生徒の育成を目指し、生徒たちの「生活への気づき」、「生活技能の獲得」、「主体者意識」、「必要なときに支援を受ける方法の獲得」などを目的に創設された授業である。その目標は以下の3点である。

○生活に必要な知識と技能を身に付け、今の生活にいかしながら、卒業後の生活への準備を始める。

○生活の中でできることは自分でやり、必要な場合は援助を受けることを学習し、実践できるようにする。

○自立した生活に向けての意欲を育み、主体者として生きていく素地を養う。

これらの目標のもと、調理、被服、住まい各分野の目標は以下のとおりである。

調理

○調理に関する実践的な活動を通して、生活に必要な知識と技能を身に付け、生活にいかす。

被服

○被服に関する実践的な活動を通して、生活に必要な知識と技能を身に付け、生活にいかす。

○時、場所、目的等に応じて、清潔な服装に心がけ、生活する。

住まい

○住まいに関する実践的な活動を通して、生活に必要な知識と技能を身に付け、生活にいかす。

す。

実際の授業は「くらし実践編」として「調理」「被服」「住まい」の3分野と「くらし知識編」の「生活知識」の4分野で成り立っている。授業は実践編が週1回2単位時間、知識編が週1回1単位時間で行われている。実践編は年間を3期に分け、1年間で各分野を学習するように組み立てられている。各学年での学習時期などは以下の通りで、各時期とも授業回数は6～7回程度である。

	第1期 4月～7月	第2期 9月～12月	第3期 1月～3月
1年生	すまい	調理	被服
2年生	被服	すまい	調理
3年生	調理	被服	すまい

くらし実践編（以下「くらし」と表記する）の学習内容は、分野ごとに学習内容一覧としてまとめてある（資料1～3）。これらについて各学習時期の当初に生徒、保護者にアンケートを取り、その結果を見て学習課題を設定している

次に、実践編の実際の授業であるが、各学習時期と授業の展開は以下のような手順である。

- ・生徒・保護者へのアンケートより学習課題を設定する。
- ・1回目の授業でオリエンテーション的内容、あるいは実態把握的な内容を行う。
- ・学習課題の修正を行い、毎回の授業を行う。
- ・毎回の授業で評価表を兼ねた手順表（ワークシート）を使用し、授業ごとに生徒の自己評価と教員の評価を行う。
- ・必要と状況に応じ、同じ学習を何度か継続して行う。
- ・学習時期の最後に、当該時期に行った学習についての評価を評価表に記入し、家庭に返す。

3 「くらし」の授業の10年間の変遷

「くらし」の授業を開設して10年になるが、現状では、開設当初とはそれなりに様変わりしているところもある。ここでは、この10年間のくらしの学習について、学習グループの編成、評価表（ワークシート）等の変化という観点で変遷をみている。

創設当初はまだ、「自己選択・自己決定」という思潮が一つの社会的な流れであった時代である。そのため、くらしの授業にもその影響が大きく見られた。たとえば、創設当初は実践編3分野についてどれから順番に学習するか、ということも生徒の選択の対象であった。また、何を学習するかを選択するのも、現状に比べ、生徒の選択に応じて行くという傾向が強かった。そのため、実践編3分野の学習グループの決定や、個々の生徒の学習課題の設定などにも多くの調整が必要であった。授業の開設4年目より、学習グループを各学年で順番に行うように変更した。生活知識に関しても当初能力別グループ編成を行っていたが、2年前より、学年単位で授業を行うように変更している。

また、評価表（ワークシート）等の変化であるが、生徒個々の特性に合わせて資料を作り変えることは当然のことであるが、それと同時にICT技術の進歩により、よりわかりやすい評価

表（ワークシート）等の資料の作成が容易になった。当初から言葉だけでは難しい生徒たちへの情報提示の方法は大きな課題であったが、評価表（ワークシート）等への画像の導入などを含め、個々の生徒の特性に応じた評価表等の資料作成はやりやすくなっている。

Ⅱ 昨年度の研究概要

1 「くらし」の授業の課題

「くらし」の創設から10年が過ぎ、知的障害児・者を取り巻く社会的状況や生活スタイル、本校高等部生徒の実態等が変化してきた。また、日々の実践を繰り返す中で、保護者の希望や本人のニーズを尊重しながら、限られた教員数でいかに効率的な授業、最適な内容を3年間の見通しの中で展開していくかという課題が挙がっていた。そのためには授業づくりのもととなる「学習内容一覧」の項目やアンケートの取り方、および学習形態（個別の指導を中心としたものと集団で学習するもの）の組み方等を見直す必要があった。また、高等部3年間での学習の発展性や家庭との連携および卒業後への移行につながる評価方法も検討する必要があった。

2 「くらし」の授業の課題への取り組み

前述のような目的で開設した「くらし」の授業であるが、10年間の実践の中でいろいろと困難な点や課題もあげられるようになった。そして昨年度の研究は「生徒の生活によりそう「くらし」の授業づくり」をテーマに、実践編3分野で現状での「くらし」の課題を検討し、授業改善を図った。そして主に以下の5点で一定の成果が得られた。

- ①生徒の希望や保護者のニーズ、家庭での活動状況等の情報収集の改善
- ②指導内容や指導計画の改善
- ③生徒の課題設定の方法の改善
- ④手順表（ワークシート）の改善
- ⑤教材の工夫（新しい器具・機材等の導入）
- ⑥指導方法の改善

3 「くらし」の研究で残された課題

上記の課題については一定の成果が得られたが、「くらし」の授業が全体として目指す方向性や、理想とする生徒像に関して調理、被服、住まいの各分野共通の理解を図り、くらし全体を見通して何を目指し、何を教えるのかについて各分野の整合性をつけることは大きな課題として残った。この整合性を持つことは、各分野で授業を組み立て、行う上で授業に関わる人が共通に持つべき認識である。そのためにはくらし創設時に作成された指導内容一覧をもとに、3年間を見据えた学習の流れを再度見直し、それを再構築し、各分野共通の形のものとして整理することが必要であった。

Ⅲ 今年度の研究内容

1 テーマの設定

今年度の全校研究テーマは「教育課程の新たな展開に向けた取り組みⅠ—支援内容配列表改訂に向けて—」である。我々は前述のような「くらし」の学習の状況を考え、昨年度から取り組んでいる「くらし」の授業の研究を継続することとした。そして「くらし」の授業の課題の一つである、「生徒の生活の中に学習したことを生かす」ための授業づくりを今年度の研究課題と考え、「生徒の生活によりそう『くらし』の授業づくりⅡ」をテーマとして研究に取り組むこととした。支援内容配列表の改訂に向けては、「くらし」の授業改善を図る中で「くらし」の目標と支援内容配列表の該当する部分の目標や項目を精査し、比較対照することを研究の一部とすることとした。

2 研究の概要

上記のテーマ設定に基づき、以下の内容について検討することとした。

- 1) 支援内容配列表と「くらし」の関連
- 2) 「くらし」のめざす方向性
- 3) 「くらし」の各分野（調理、被服、住まい）の「学習の構成」表
- 4) 生徒の生活によりそう授業づくり

1) 支援内容配列表と「くらし」の関連

①「くらし」の学習内容が生活支援内容配列表（高等部の欄）に当てはまる項目

生活支援の中の

身辺生活：人、時、場に合わせた日常生活に必要な身辺処理を自分でおこなう。

家庭生活：将来の自立生活に必要な調理、被服、住まいなどの知識と技能を身につけ実践する。

集団生活：学校や社会のきまりを考えたり、進んでこれを守るようになる。

地域生活：地域の身近な人たちや支援者を理解し、ニーズに適合した活動をおこなう。

地域社会のルールを理解し、生活に生かしていく。

経済生活：計画的な買い物をする。

こづかい帳を利用したお金の使い方がわかる。

健康・安全・性：自分の健康状態を考えて主体的に生活する。

体や心の安定維持に必要な知識や方法を身につけ使えるようにする。

危ないことの予測や配慮を考えて行動する。

障害について知り、肯定的な自己像確立に向けた準備を始める。

②支援内容配列表の生活支援の目標

家庭や地域で暮らすための基礎的な知識や技能、態度を形成するとともに、将来の生活を主体的に切り開いていこうとする力への支援

③支援内容配列表の「生活支援の目標」から「くらし」の学習の構成をとらえ直す

生活支援の目標の前半部分には「家庭や地域で暮らすための基礎的な知識や技能、態

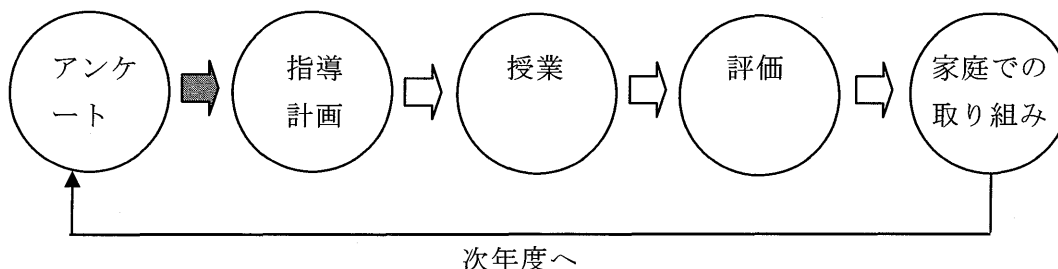
度を形成する」があり、これは「くらし」の目標「生活に必要な知識と技能を身に付け、今の生活にいかしながら、卒業後の生活への準備を始める」と合致する。また、生活支援の目標の後半部分の「将来の生活を主体的に切り開いていこうとする力への支援」は、「くらし」の目標「自立した生活に向けての意欲を育み、主体者として生きていく素地を養う」ことととらえることができる。このように、高等部の「くらし」の学習は、支援内容配列表の「生活支援」と密接に関わっていることがわかる。

2) 「くらし」の目指す方向性

① 今までの「くらし」の学習システム

生徒の希望、保護者のニーズをアンケートでとり、各分野の担当者の方針のもと指導計画を立て、授業を行い、授業後に評価をし、その評価を評価表で家庭に報告をしていた。そして翌年度に再度アンケートを行って家庭での取り組み状況を調べ、指導計画を立てていた。生徒の希望や保護者のニーズの実態把握を受けて各分野担当者が指導計画を立てるのだが、指導計画を立てる際の基本方針や、3年間でなにをどう学ぶのかという学習の流れの作成は各担当者に任されていた。そのため、分野の担当者が変われば指導計画や指導内容もまた変更される可能性があり、「くらし」の授業としての一貫性に欠ける可能性があった。

図に表すと以下のようなになる（塗りつぶしの矢印は課題があった個所）。

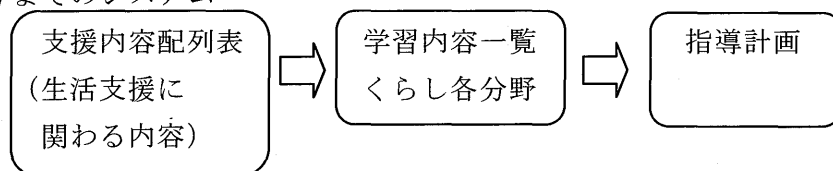


② 「学習の構成」を取り入れたシステム

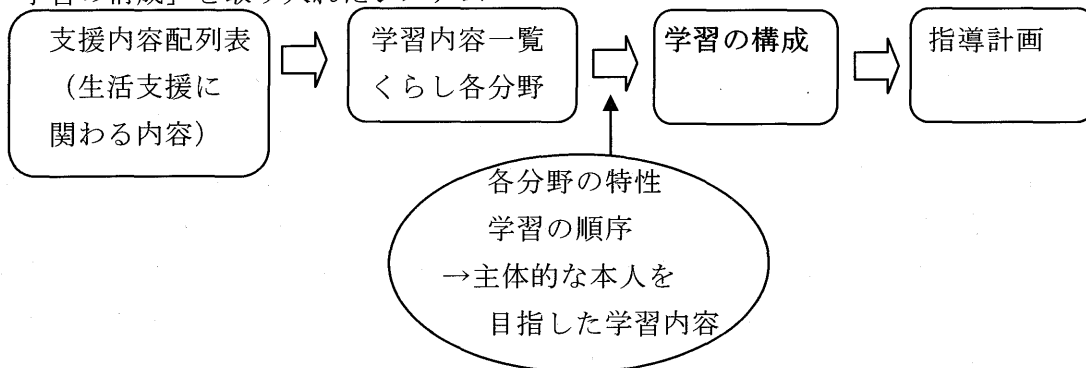
上記の反省を受け、アンケートを取り、支援内容配列表と学習内容一覧をもとに指導計画を立てる際、主体的な本人を目指した学習内容を考慮し、各分野の特性や学習の順序を考えるために「学習の構成」表を作成し、それに基づき指導計画を立てることとした。

指導計画立案までのシステムの変更を図に表すと以下のようになる。

今までのシステム



「学習の構成」を取り入れたシステム

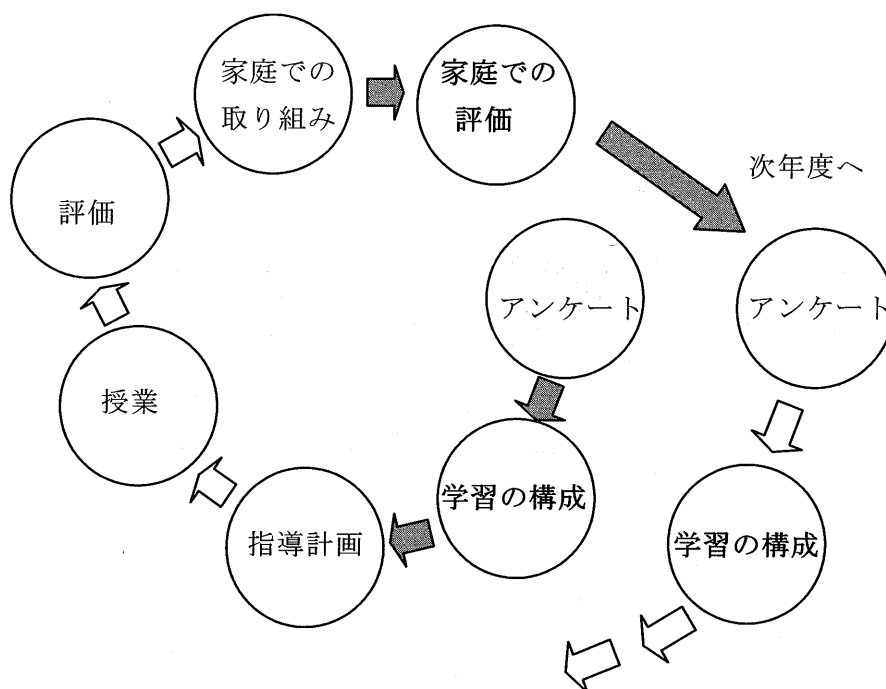


③新しい「暮らし」の学習システム

調理、被服、住まい各分野の指導計画に整合性をつけるため、今までの学習システムに「学習の構成」を加えることは大きな意義を持つ。しかし、高等部在学中の3年間の大きな流れの中で次年度の「暮らし」の学習のステップアップを図ろうとすると、「暮らし」の授業を行ったあとの家庭での取り組み状況をより正確にとらえる必要がある。授業で学んだ実技の部分がその後家庭でどのように取り組まれているか、暮らしに関して意欲や意識の部分で変化はあったか等に関し、家庭で評価をしてもらうこととした。その結果をフィードバックし、次年度に再度アンケートを実施し、参考資料とすることで、より生徒によりそう指導計画が立てられると考える。

「学習の構成」と「家庭での評価」を学習のサイクルに取り入れることにより、直線的であった今までの学習システムが、次年度の学習の流れに継続的に引き続くらせん状になり、3年間を通しての「暮らし」の学習の流れが、より機能的になると考える。

「学習の構成」と「家庭での評価」を取り入れた「くらし」の学習システムのイメージを図に表すと以下ようになる（太字と塗りつぶしの矢印は新たに設けた個所）。

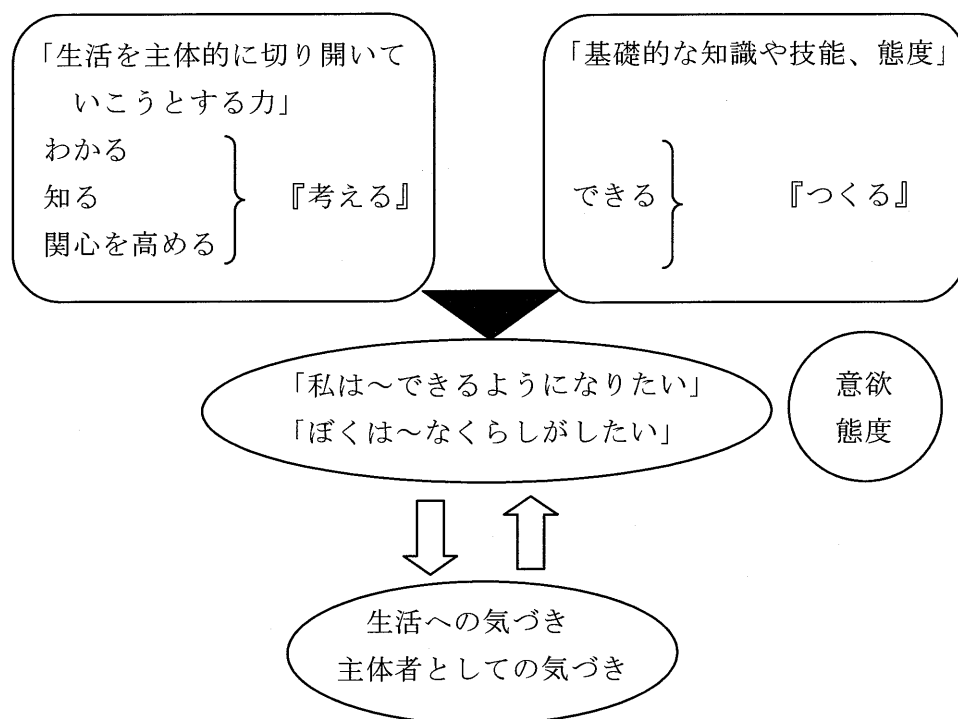


④ 「学習の構成」を考える上での視点

「くらし」創設の際の基本的な考えである「卒業後の自分自身の暮らし方、さらには生き方を主体的に考え、選択し、体験を重ねる学習が独自の授業内容を持つものとして独立した授業形態を取ることが必要と考えた」を踏まえ、「くらし」の目標の中の「自立した生活に向けての意欲を育み、主体者として生きていく素地を養う」ために何が必要であるのかを考えた。

「くらし」の授業は実践編という名称がついている通り、技能の習得を目指す側面を持っていることは確かだが、その技能の習得を裏付けるためには、生活を主体的に切り開いていこうとする力を育成し、「わたしは～できるようになりたい」「ぼくは～なくらしがしたい」といった生活への気づき・意欲の育成も同時に行わなければならない。将来の自分が「どんな仕事をしているのかな?」「給料でなにを買おうかな?」「週末はなにをして過ごしているのかな?」等、どのようなくらしをし、どのような人生を送るのかを生徒自身で考える機会を設けることも必要である。このように生徒自身が自ら自分のくらしを『考える』視点を、技能の習得と同じレベルで並列して明示したことが「学習の構成」の大きな特徴である。

図に表すと以下のようなになる。



⑤ 「学習の構成」を作成するにあたって

「学習の構成」の一番上の欄には支援内容配列表における「生活支援」の目標を掲げた。「生活支援」の目標の下の左欄に「生活を主体的に切り開いていこうとする力」に関する学習内容を載せた。これらを生徒向けのことばとして『考える』とまとめ、各分野ともに「～を考えよう」のキャッチフレーズとして統一し、生徒の意欲や意識の育成を目指した。右欄には「基礎的な知識や技能、態度」に関する学習内容を載せた。これらを生徒向けのことばとして『つくる』とまとめ、各分野ともに「～をつくろう」のキャッチフレーズとして統一し、技能や態度の育成を目指した。また、各欄にはテーマを掲げ、取り組むべき指導内容がわかりやすくなるようにした。

表の左欄の「～を考えよう」の学習項目と右欄の「～をつくろう」の学習項目には関連を持たせ、実技の能力の育成と同時に意欲や態度の育成も図れるようにした。

IV 調理、被服、住まい各分野の「学習の構成」

1 調理

1) 「学習の構成」を作成するにあたって

- 「調理」を単なる「料理」と捉え、調理のスキルのみには焦点を当てるのではなく、自分の現在の生活や将来の生活をより主体的に考える学習の機会と考える。
- 学習内容一覧にある 44 項目のアンケートの結果を踏まえて指導計画を立てることは、教員の経験や生徒の見取り、家庭に関する情報量に大きく左右されてしまう。よって学習内容を 3 段階に分けることで、より狭い選択肢で保護者アンケートを実施でき、指導計画も立てやすくなると考えた。
- 調理は包丁やガス等の調理器具を使い、安全の確保が第一である。そのため、保護者へのアンケートと生徒の希望を踏まえ、1 クラスを 3 つのグループに分けた。このグループ分けは年度ごとに検討し、各学年での授業を行う。
- 3 つのグループがそれぞれ、生徒の実態に合わせ、「学習の流れ」の該当するステップ（項目）を中心に指導計画を立て、授業を組み立てる（1 年生でもステップ 1 を中心に活動するグループもあれば、ステップ 3 を中心に活動するグループもある）。
- 「生活を主体的に切り開いていこうとする力」に関する学習内容に関して、生徒が覚えやすいキャッチフレーズとして「安全で健康的な食生活を考えよう」を、「基礎的な知識や技能、態度」に関する学習内容に関して、生徒が覚えやすいキャッチフレーズとして「安全で健康的な食生活をつくろう」を作った。
- 「～を考えよう」は、自分自身の生活に目を向ける、興味・関心を広げる、自分のこととして考える（＝「調理は自分の責任ですものなんだ!」「自分が食べるものは自分で決めて良いんだ!」）ことをねらった内容で構成した。
- 「～を考えよう」の中では、自分の生活に目を向けさせるために、まずステップ 1 では「自分から参加する食生活」を取り上げることとした。そして、ステップ 2 では「ひとりでできる食生活」、ステップ 3 では「ライフスタイルに合った食生活」と段階的に内容を配列した。
- 「～をつくろう」は、現行の学習内容一覧にある項目のスキルを精選したうえで、「～を考えよう」のステップごとの内容に関連させて構成した。
- 「～をつくろう」の中では、まずステップ 1 「調理のできることを増やす」をテーマとし、調理の基本、色々な器具の使い方等を指導する。ステップ 2 では「調理をひとりで行う」、ステップ 3 では「調理活動全般をひとりで行う」をテーマに、保護者へのアンケートや生徒の希望を踏まえ、指導計画を立てる。
- 「～を考えよう」の内容を事前授業や授業の導入で取り扱い、1 回の授業 110 分間の残りの時間を「～をつくろう」に当てる。

2) 「学習の構成」表

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">支援内容配列表における「生活支援」の目標</div> 「家庭や地域で暮らすための基礎的な知識や技能、態度を形成するとともに、将来の生活を主体的に切り開いていこうとする力への支援」	
「生活を主体的に切り開いていこうとする力」 に關わる学習内容	「基礎的な知識や技能、態度」 に關する学習内容
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">キャッチフレーズ</div> 「安全で健康的な食生活を考えよう」	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">キャッチフレーズ</div> 「安全で健康的な食生活をつくろう」	
ステップ 1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 「自分から参加する食生活」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の好きな食べものを考える。 ○ 自分ができる調理スキルを知る。 ○ 家庭の中で自分ができる調理活動を知る。 ○ 危険な調理器具について知る。 ○ ごはん、おかず、汁ものを揃えた一食のスタイルを知る。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 「調理でできることを増やす」 <ul style="list-style-type: none"> ○ メモに応じて買いものができる。 ○ 自分から調理の準備をすることができる。 ○ 包丁を安全に扱うことができる。 ○ 自分ができる調理スキルを使い、確実にできることを増やす。 ○ 調理の後片付けで、確実にできることを増やす。
ステップ 2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 「ひとりでできる食生活」 <ul style="list-style-type: none"> ○ ひとりで調理できる料理を見つける。 ○ ひとりでできる調理方法を知る。 ○ 得意な一品を作る意欲を持つ。 ○ 家族のために作る料理を考える。 ○ 調理の安全や衛生について知る。 ○ 主食、主菜、副菜を揃えた一食のスタイルを知る。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 「調理をひとりで行う」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 必要な材料の買いものができる。 ○ 手順表を見て調理の準備をすることができる。 ○ 調理器具を安全に扱うことができる。 ○ ひとりで調理することができる。 ○ 食器と調理器具の後片付けができる。
ステップ 3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 「ライフスタイルに合った食生活」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のライフスタイルに合った食生活を考える。 ○ 栄養バランスのとれたメニューを考える。 ○ 家庭にある材料でメニューを考える。 ○ 食生活の安全や衛生について知る。 ○ 食事場面でのマナーを知る。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 「調理活動全般をひとりで行う」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 予算内で、献立にあった買いものができる。 ○ 食材を衛生的に管理することができる。 ○ 調理する場所の安全を維持する。 ○ 市販のレシピから自分の食べたい料理を選び、調理することができる。 ○ 家庭にある材料で調理することができる。 ○ 調理の後片付けができる。

2 被服

1) 「学習の構成」を作成するにあたって

- 「被服」を洗濯や裁縫のスキルのみには焦点をあてるのではなく、自分の現在の生活や将来の生活をより主体的に考える学習の機会と考える。
- 具体的には、「被服」分野を「衣生活」と大きな視点で捉えることで、洗濯や服のことなどが自分の生活の一部であると捉えること、その中で自分に合った衣生活を創っていくことをねらいとしている。
- 「被服」の学習内容をまとめたフレーズとして、「すてきで快適な衣生活を考えつくっていくこと」とした。
- 「すてき！」とは、自分の服や自分の衣生活を自分のこととして捉えることができ、生活の主体者としての意識をもつこと、また、ファッション、服装、服を着ることを楽しむこと、自分の好きな服や着たい服を選ぶこと、選んでもいいことがわかること等をイメージしている。
- 「かいてき！」は、自分も相手も快適に過ごすことを前提とし、衣類の清潔を保ち、長持ちさせるための衣類の手入れがわかること、自分のサイズや活動、目的に合う服が選べること、などから、「この服気持ちがいい！」と思え、自分に合った自分らしい衣生活を自分でつくっていくことをイメージしている。
- 構成表にはステップ1からステップ3に分類されているが、被服ではステップを学年として捉えている。
- 「～を考えよう」では、自分自身の生活に目を向けること、興味・関心を広げること、自分のこととして考える(=「自分の好きな服を着ていいことがわかる」&「自分の責任で服の着回しや洗濯のプランを自分で決めることができることがわかる」)ことをねらった学習である。ステップ1では、自分の身近な服や身近な服の手入れについて考える。ステップ2では、生活を楽しむための服を着ること、色々な服装やファッション、コーディネートについて考える。ステップ3では、社会人にむけて自分に合った衣生活をデザインしていくことについて考える。自分の服から他者との関わりの中での服、そして社会の中での服と、衣生活の幅を広げていく。このことは、実際の高校生活での生活の幅の広がりと同様リンクしている。
- 「～をつくろう」では、「すてきで快適な衣類を維持していくこと」に関する知識や技能、態度を身に付けていく。これは、学習内容一覧にある項目から、衣類の手入れや管理に関するスキルを精選した上で、「～を考えよう」のステップごとの内容に関連させて構成した。ステップ1では、衣類の清潔を維持するための知識やスキルを身につけることを目的としている。主に洗濯に関することが中心となる。ステップ2では、色々な服を管理していく知識やスキルを身につけることを目的としている。洗濯の応用的な方法や、衣類の修繕が入る。ステップ3では、衣生活を自分で作っていく時に、知っておきたいこと、身につけておくことより快適に過ごせると思われる内容を中心としている。「～を考えよう」と同じように、衣類の維持や管理の幅が1から3まで広がっていくイメージである。
- この構成表をもとに、保護者のアンケートや本人のニーズを踏まえて指導計画を立てている。

2) 「学習の構成」

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">支援内容配列表における「生活支援」の目標</div> 「家庭や地域で暮らすための基礎的な知識や技能、態度を形成するとともに、 将来の生活を主体的に切り開いていこうとする力への支援」		
	「生活を主体的に切り開いて いこうとする力」 に関わる学習内容	「基礎的な知識や技能、態度」 に関する学習内容
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">キャッチフレーズ</div> 「すてきで快適な衣生活を考えよう」	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">キャッチフレーズ</div> 「すてきで快適な衣生活をつくろう」
ステップ 1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 「衣類の役割」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が持っている服を見つめなおし、服への関心を高める。 ○ 服を清潔にすることの必要性を考える。 ○ 寒暖に応じた服装を考える。 ○ 自分に合った衣類のサイズがわかる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 「衣類の清潔を維持する」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 衣類の汚れやほつれに気づく。 ○ 洗濯の一連の流れができる（洗う、干す、取り込む）。 ○ 衣類をたたむことができる。 ○ 現状の生活に応じたやり方で衣類の収納ができる。 ○ アイロンを使うことができる。 ○ 衣類の購入ができる（下着など）。
ステップ 2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 「生活を楽しむための服」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 色々な服装を知る。 ○ 自分の好きな服、似合う服を選ぶ楽しさを知る。 ○ 活動の目的に合った服の素材やデザインを知る。 ○ 色々な服のコーディネートを考える。 ○ 衣類を大切に長持ちさせる手入れの仕方を知る。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 「色々な衣類を管理する」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 素材や汚れに応じて洗濯機の機能を使い分けて洗濯できる。 ○ 洗剤の種類や使い方が分かる。 ○ 靴を洗うことができる。 ○ Yシャツやズボン等のアイロンがけができる。 ○ 衣類の修繕ができる。 ○ 衣類の購入ができる（自分の好きなカジュアルな服など）。
ステップ 3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 「社会人としての衣生活」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 場面や目的にふさわしい服装を考える。 ○ 自分にあった収納の仕方を考える。 ○ 衣生活に必要な生活雑貨の種類や選び方を考える。 ○ 衣類の着回しと洗濯プランを考える（一週間の計画）。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 「より快適に衣類を維持・管理する」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 衣類の手入れや修繕の専門店を利用することができる。 ○ 革製品や小物の維持管理ができる。 ○ 衣料用消臭剤や防虫剤などの種類や使い方がわかる。 ○ 衣類の購入ができる（ネクタイやストッキングなど）。

3 住まい

1) 「学習の構成」を作成するにあたって

- 「住まい」を単なる「お掃除の学習」として、清掃のスキルのみ焦点を当てるのではなく、自分の現在や将来の生活をより主体的に考える学習の機会と考えて、学習内容を捉え直した。
- 学習内容を大きく二つに分けて考えた。これまで大きく扱ってきた清掃のスキルに関連する内容を『基礎的な知識や技能、態度』に関する学習内容」として整理し直した。一方、生活を主体的に捉えることへのアプローチとして『生活を主体的に切り開いていこうとする力』に関する学習内容」として内容を検討した。
- 『生活を主体的に切り開いていこうとする力』に関する学習内容』には、授業において、生徒がイメージしやすいように「健康的で快適な住まいを考えよう」というキャッチフレーズをつけた。『基礎的な知識や技能、態度』に関する学習内容』のキャッチフレーズは、「健康的で快適な住まいをつくろう」とした。
- 「～を考えよう」の学習は、自分自身の生活を見直し、広く「住まい」に対しての興味・関心を広げることをねらった。用意された家の中に住まわされているのではなく、自分で自分の住まいを創造していこうとする意欲の向上や態度の形成をねらって学習内容を考えた。（「自分の部屋は、自分の好きなように飾っていいんだ！」「自分の責任で管理、掃除するものなんだ！」「自分が住むところは自分で決める権利があるんだ！」）
- 「～を考えよう」の中では、自分の生活に目を向けさせるために、まず1年生では、身近な「自分の部屋」を取り上げることとした。そして、2年生では「家」、3年生では「将来のすまい」と段階的に内容を配列した。（縦のつながり）
- 「～をつくろう」は、現行の学習内容一覧にある項目、いわゆる「ハウスキーピング」のスキルを精選したうえで、「～を考えよう」の学年ごとの内容に関連させて構成した。（横のつながり）
- 「～をつくろう」の中では、まず1年生で「居室の掃除」をテーマとし、掃除の基本、色々な道具の使い方等を原則一斉指導で行う。2年生では「色々な場所の掃除」、3年生では「住まいに必要なこと」をテーマに保護者、本人へのアンケートを踏まえて指導計画を立てる。
- 学習内容一覧にある38項目のアンケートの結果を踏まえて指導計画を立てる現行のシステムでは、項目が多く、学習内容を絞りにくい。また、学習内容を選定するにあたって、担当教員の経験や生徒の実態把握、家庭に関する情報量に大きく左右されてしまう。そこで学習内容を3段階（3学年）に分け、より少ない項目で保護者アンケートを実施することで、学習内容が絞られ、指導計画も立てやすくなると思った。
- 1回の授業110分間の内、原則、1/3程度の時間を上記「～を考えよう」、2/3程度の時間を「～をつくろう」に当てる。できるだけ前後半の内容を関連づけることができるように指導計画を工夫する。

2) 「学習の構成」

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">支援内容配列表における「生活支援」の目標</div> 「家庭や地域で暮らすための基礎的な知識や技能、態度を形成するとともに、将来の生活を主体的に切り開いていこうとする力への支援」	
「生活を主体的に切り開いていこうとする力」 に関する学習内容	「基礎的な知識や技能、態度」 に関する学習内容
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">キャッチフレーズ</div> 「健康的で快適な住まいを考えよう」	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">キャッチフレーズ</div> 「健康的で快適な住まいをつくろう」
<p style="text-align: center;">テーマ 「自分の部屋」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の部屋を見つめ直し、関心を高める。 ○ 自分の部屋の好きなどころや困っていることなどを考える。 ○ 人それぞれ、様々な部屋のあり方、スタイルがあることを知る。 ○ 部屋に必要な物や欲しい物を考える。 ○ 自分の好みの部屋、自分らしい部屋を考える。 ○ 掃除はいつ、誰が、どんな風に行っているのかがわかる。 	<p style="text-align: center;">テーマ 「居室の掃除」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 整理整頓をすることができる。 ○ 箒やちりとりを使うことができる。 ○ 雑巾や布巾を使うことができる。 ○ 掃除機を使うことができる。 ○ 窓の掃除ができる。 ○ 色々な掃除グッズの種類、用途、使い方がわかる。(お掃除シート、モップ、ダスター、化繊雑巾、洗剤等)
<p style="text-align: center;">テーマ 「家」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活を送るために必要な部屋がわかる。 ○ 間取りについて知る。 ○ どの部屋をいつ、誰が、どんな風に掃除しているのかがわかる。 ○ 家庭での自分の掃除分担を考える。 ○ 住みたい理想の家を考える。 	<p style="text-align: center;">テーマ 「色々な場所の掃除」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ トイレの掃除ができる。 ○ 浴室の掃除ができる。 ○ 洗面所の掃除ができる。 ○ 玄関の掃除ができる。 ○ 台所の掃除ができる。
<p style="text-align: center;">テーマ 「将来の住まい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 色々なくらしの形態を知る (一人暮らし、通勤寮、グループホーム、家族と同居等)。 ○ 生活に必要な家具、道具がわかる。 ○ 部屋の探し方、借り方、家賃等について知る。 ○ 家具や生活雑貨の選び方や買い方を知る。 ○ 安全、安心な住まいについて考える。 	<p style="text-align: center;">テーマ 「住まいに必要なこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 布団干しやベッドメイキングができる。 ○ 電池、電球、蛍光灯等の扱いができる。 ○ 冷暖房器具の扱いや手入れができる。 ○ コンロの掃除ができる。 ○ 換気扇の掃除ができる。 ○ 生活を彩る幅を広げる (花を生ける、額を飾る等)。 ○ 住まいのトラブルの対処法が分かる (水まわり、防虫、割れ物の処理等)。

IV まとめ

高等部として生徒に「よりそう」授業とはなにか？この問いを改めて考えることから本研究はスタートした。「くらし」の授業実技編としては技能の育成を大切に、「わたしは～できるようになりたい」と、できることを増やすことはもちろん大事ではある。しかし、卒業後の生活への期待感や前向きな姿勢を持つ人間を目指すこと、つまり「わたしは～なくらしがしたい」といった意識や意欲を引き出し、明確な課題設定をすることで、生徒の新たな気づきを作り、生徒が主体者として意欲的に生きていくことも同時に大切なことである。

「くらし」の授業と言うと、技能の育成というイメージがあるかもしれない。しかし技能は、生徒が生活への気づきや主体者として生きる気づきを持って初めて身につくものである。生徒の意欲や意識を高めることこそ、「くらし」の授業づくりの大前提であると考えている。そのため、目には見えにくい意欲や意識の育成の指導をどのように行うのか、それに伴う学習の流れはどのようにすべきか、に研究の主眼を置いた。

支援内容配列表と学習内容一覧をもとに、新たに「学習の構成」を作成し、「くらし」の学習サイクルに組み込むことにより、上記の課題の解決へ向けては一步前進したと考えている。生徒が生活の主体者として生きることは、最近話題になっているキャリア教育に通じるものがある。キャリア教育に労働、余暇、生活に加え、市民としての観点が含まれていることは、将来の生活において生徒が生活の主体者として生きていく力を育成することである。これは技能の習得のみが生活を作っていくのではなく、「わたしは～したい」という権利意識、つまり自分らしく生きていく力を育成することである。この視点を改めて認識したのが本研究の大きな収穫の一つである。

また、本研究を進める中で、「くらし」の授業でなにをどう教えるのかということ議論し、今まで各担当者に任されていた指導計画が高等部全体のものとして統一できたことも大きな収穫である。「くらし」全体として意識しておくべきこと、調理、被服、住まいの各分野で共通して教えることを、高等部全教員が共通認識として持つことができるようになり、授業に一貫性が出てきた。

今後の課題としては、調理、被服、住まい各分野の特性を考慮しつつ、共通の形で「学習の構成」表を作成したが、この表をもとに来年度、さらには3か年をかけ、その妥当性の検証をしていかなければならない。また、学習の流れで「アンケート」「評価」「家庭での取り組み」「家庭での評価」等個別の活動についても検討を重ねなければならない。さらに長期的な観点からは、「くらし」の授業の改善への取り組みによって、生徒の卒業後の生活がどのように変化するであろうかを検討することも必要である。また、家庭との連携において「家庭でなにをすればできるようになる」といった情報の、学校側からの発信も考えなくてはならない。

以上、まとめとして本研究の成果と今後の課題について述べたが、これから実際に「くらし」の授業を行うにつれ、新たな課題が出てくるであろう。それらの課題を高等部全体で共有し、解決に向かうことで、より良い「くらし」の授業を展開していきたいと考える。

参考文献

特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）（2009）文部科学省
東京学芸大学附属特別支援学校研究紀要（2010～2011）

資料1 「調理」学習内容一覧

具 体 的 な 内 容		
1 段 階 ・ 基 礎 編 ・ 包 丁 を 使 わ な い で 可 能	1. 身支度 (エプロン・三角巾・うでまくり)	
	2. つめ切り (練習用の紙、自分の爪、右、左)	
	3. 手洗い (掌・手の甲・指の間・指先・手首)	
	4. 調理器具の名前がわかる	
	5. 材料の名前がわかる	
	6. ガスを安全に使うことができる (元栓開け閉め、点火・消火、火の大きさ調節、点火中の注意)	
	7. お茶、紅茶、コーヒー等を入れ、かたづけができる	
	8. インスタント食品を使って食事を用意し、かたづけができる (例：カップ麺、インスタントラーメン、味噌汁、やきそば他)	
	9. インスタント食品、レトルト食品、冷凍食品を買うことができる	
	10. 電子レンジが使える (例：ごはん、野菜、冷凍ピザ、グラタン、カレー等の冷凍食品レトルト食品他)	
	11. 目玉焼きを作り、かたづけができる	
	12. ご飯を炊き、かたづけができる	
	13. サラダが作れる	・野菜を洗うことができる
	片付けができる	・皮剥き器を使って皮をむく
	る	・野菜調理器や缶切りがつかえる
	14. お好み焼きを作り、かたづけができる	
	15. フードプロセッサーをつかって餃子を作る	
	16. 食器洗い、食器ふき、片づけができる	
17. 流しやレンジ周りなどの後始末ができる		
18. ゴミの分別ができる		

2 段階 ・ 一品料理編 ・ 包丁を使う	19. 買い物ができる
	20. 包丁を使える（銀杏・半月・輪・千・みじん切り等色々な素材切り、2等分、4等分、皮むき）
	21. 包丁等の道具を安全に扱うことができる
	22. 味噌汁を作り、かたづけができる
	23. 豚汁を作り、片づけができる
	24. カレー類（シチュー、ハヤシライス他）を作り、片づけができる。
	25. 麺類を作り、片づけができる a.炒める（焼きそば、ビーフンなど） b.煮る（ゆでうどん、ゆでそばを使う） c.具の準備をし、麺をゆで、合わせる（乾麺：そば、うどん、パスタ、そうめん）
	26. 丼物（親子・カツ・三色他）
	27. 食材の名前を知り、栄養素について学習する
	3 段階 ・ 一食調理 ・ 応用編 ・ 一人で作る
29. レシピを見て料理を作り、かたづけができる（餃子、焼き魚、ハンバーグ、チャーハン、鍋、野菜炒め、青菜のおひたし、デザート、おやつ他）	
30. サンプルやレシピを見て朝食を作り、かたづけができる（ 分）	
31. 栄養のバランスを考えた朝食を作り、かたづけができる（ 分）	
32. 時間を見ながら臨機応変に朝食を作る（ 分）	
33. 弁当を作り、後片づけができる（ 分）	
34. レシピやサンプルを見て、夕食を作り、後片づけができる	
35. 栄養を考えた夕食を作り、後片づけができる	
36. 家（学校）にある材料で一食分の献立を考えて作る	
37. 買い物からかたづけまでの調理活動を一人でやる	
38. 買い物の決算ができる（現金出納帳、家計簿）	
39. 予算内の買い物ができる	
40. 人数分の食事ができる	
その 他	41. 友人と役割分担して会食の食事を作ることができる
	42. 外食ができる
	43. コンビニや弁当屋を利用できる
	44. 出前を取ることができる

資料2 「被服」学習内容一覧

具 体 的 な 内 容	
洗濯	手で洗う
	1. 運動靴を洗うことができる。
	2. 靴下を洗う。
	3. 特別な洗濯物を洗う。(ひどい汚れ物)
	4. 特別な洗濯物を洗う。(洗濯機で洗えない物)
	洗濯機で洗う
	5. 必要な洗剤の量が分かり、洗濯することができる。
	6. 洗濯機の操作が分かり、洗濯することができる。
	7. 取り扱い絵表示が分かり、洗濯することができる。
	8. 洗濯ネットが必要な衣類を洗濯することができる。
	9. ひどい汚れ物は別にして洗濯することができる。
10. 色物の衣類は別に洗濯することができる。	
11. 洗濯機の使用後の手入れをすることができる。	
	12. アイロンの使い方が分かり、利用できる。
	13. 用途や繊維にあった洗剤の使い方が分かり、利用できる。(漂白剤、柔軟剤等)
	14. クリーニング店の利用の仕方がわかり、利用できる。
裁縫	15. 手縫いの手順がわかる。(糸通し・玉結び・なみ縫い・玉留め)
	16. ボタンをつけることができる。
	17. ひも通しができる。
	18. 服のほつれなどを直すことができる。(裾上げ等)
	19. 携帯用の裁縫セットについて知り、利用することができる。
	20. なみ縫いで、日常生活に使うものを作ることができる。
	21. ミシンを使って日常生活に使うものを作ることができる。
	22. 刺繍や編み物等、余暇につながる活動ができる。
服装	23. 季節や気候にあった服装が分かり、着こなすことができる。
	24. 目的に応じた服装が分かり、着こなすことができる。(冠婚葬祭、交際、カジュアル等)
	25. 好ましいコーディネートができる。
	26. 洋服等にはサイズがあることが分かり、自分のサイズを選ぶことができる。(靴・帽子も含む)
	27. 洋服等の購入方法を知り、買うことができる。
	28. しみぬきができる。
	29. 革靴をみがくことができる。
★	30. 二つの家事を同時に行うことができる。

資料3 「住まい」学習内容一覧

	具 体 的 な 内 容
拭き掃除	1. 雑巾や布巾をもみ洗いできる
	2. 雑巾を絞れる
	3. 雑巾やタオルをたたんで拭き、汚れたらたたみかえすことができる
	4. 台を拭き残しなく拭くことができる
	5. 部屋をすみずみまで雑巾で拭ける
	6. さんの拭き方がわかって、きれいに拭ける
	7. 住居用洗剤（マイペット等）の使用ができる
	8. 時間内に拭き掃除ができる
掃き掃除	9. いろいろなほうきを使える（座敷箒、自在箒、竹箒、短、長）
	10. いろいろなちりとりを使える
	11. 狭い場所の掃除ができる
	12. 教室のひろさを掃除できる
	13. 庭掃きができる
掃除応用編	14. 掃除機で掃除ができる（組み立て、袋取り替えと購入、片づけ）
	15. 時間内に掃き掃除ができる
	16. トイレ掃除ができる（掃除方法、洗剤の使い方や消毒方法）
	17. 風呂掃除ができる（洗剤やかびとりの使い方やあらい方）
	18. ガス台の掃除ができる（掃除の方法、薬品の使い方、油污れやこげつきの落とし方）
	19. 換気扇の掃除ができる（掃除の方法、薬品の使い方、油污れの落とし方）
	20. 冷蔵庫の掃除ができる
	21. いろいろな掃除用具の用途や使い方がわかる
22. エアコンやファンヒーターの掃除ができる（フィルター等）	
住まいのこと	23. シンクの掃除ができる
	24. 洗面台の掃除ができる
	25. 電球のワット数がわかり、安全に注意して、電球の取り替えができる（いろいろな場所の蛍光灯、電球など）
	26. 電球や電池類を売っている場所がわかり、買いに行ける
	27. 電池の入れ方や充電の仕方（懐中電灯、CDラジカセ、ひげそり他）や種類がわかる
	28. 電池の有無をチェッカーでしらべる
	29. 冷暖房器具を利用できる（電気ストーブ、エアコン）
	30. ガス暖房機を利用できる（点火、消火安全）
	31. 石油暖房機が利用できる（灯油の取り扱い、ポンプの取り扱い、点火、消火、危険、安全）
	32. 簡単なベツトメイキングができる
	33. 布団干しができる
	34. いろいろなフック（接着剤、吸盤、釘、ネジ釘）がつけられる
	35. お花をいけることができる
	36. テーブルセッティングができる
	37. たんすの引き出しの中をきれいに整頓できる
★	38. 二つの家事を同時に進めることができる（例：掃除をしながら洗濯機を回す等）

くらし（調理） 現状&希望アンケート

名前 _____

1. 現状についてお聞かせ下さい。

各項目の現状をアルファベットから選んでスキル、自発度、頻度欄の全てにご記入下さい。

A 大人が家にいなくても一人で任せられる
B 大人が見ていればできる
C 大人が支援すればできる

A 言われなくても自分から始める
B 言われれば始める
C 大人がやれば始める

A 毎日
B 毎週
C 毎月
D 休み期間

	学習項目	スキル	自発度	頻度	希望
1	自分が食べたいメニューを考える				
2	朝・昼・夜に応じたメニューを考える				
3	家庭にある材料でメニューを考える				
4	栄養バランスの良いメニューを考える				
5	必要な材料の買い物をする				
6	予算内で買い物をする				
7	買い物の決算をする(現金出納帳、家計簿)				
8	身支度をする				
9	手洗いをする				
10	調理器具を準備する				
11	材料を洗う				
12	材料を切る	1) 切り分ける			
		2) 小さく切る(1cm程度)			
		3) 色々な形に切る			
		4) 皮をむく			
13	ポットを使う				
14	電子レンジを使う				
15	オーブントースターを使う				
16	電磁調理器を使う				
17	ガス器具を使う				
18	盛りつける				
19	食器を並べる				
20	食器洗いをする	1) 手洗い			
		2) 食洗機			
21	食器ふきをする				
22	食器を元に戻す				
23	流し台や調理台の後始末をする				
24	ゴミを分別して、捨てる				
25	市販のレシピを見て調理を進める				
26	本人に合わせた手順表を見て調理を進める				

2. 希望についてお聞かせ下さい。

特に指導してほしい項目上位3つを選び、希望欄に順位をご記入ください。

*もし加熱器に関して選ぶ場合は13.14.15.16.17の中から1つのみにしてください。

3. 自由記述(食生活で望むことや困っていること等)

資料5 「調理」 学習指導案

高等部 生活支援

くらし「調理」 学習指導案

日 時：平成24年1月27日（金）10:20～11:20

対 象：高等部2年4名（女子1名、男子3名）

場 所：調理室

指導者：渡邊 聡

1 題材名「市販のレシピで作ろうー野菜炒め2ー」

2 題材設定の理由

本校高等部では、生徒の生活支援に関する内容を扱う教科として「くらし」がある。卒業後の自分自身の暮らし方、さらには生き方を主体的に考え、選択し体験を重ねる学習を独立した授業形態「くらし」として設定している。「くらし」は「調理」「被服」「住まい」「生活知識」の4分野で構成されている。その中で実践的な活動を通じた技能や技術面の習得に重点を置いた「調理」「被服」「住まい」の3分野を「くらし」と総称し、週1回約2単位時間（110分）の授業を設定している（1年間を3期に分け、クラスごとに各分野を6～7回学習する）。

本時で扱う「調理」は「調理に関する実践的な活動を通して、生活に必要な知識と技能を身に付け、生活にいかす」ことを目標としている。計26の項目（具体的な学習内容）を基に、本人・保護者へのアンケートを踏まえて指導計画を編成し、高等部2年生10名を昨年度と同じメンバー構成の3グループに分けた。

本授業の対象者は高等部2年生第3グループの4名である。1年時には服装、準備等の衛生面、包丁の安全な使い方を学習するとともに、簡単な一品料理を調理する課題に取り組んできた。本人・保護者へのアンケートによると、技能の習得や家庭で調理をする頻度は生徒によって異なるが、自分で調理を進めることや栄養バランスのとれた献立を考えることを課題とする生徒が多い。そこで今年度は、レシピや手順表を見て調理をすることと、本校の栄養教諭に事前のメニュー作成時に立ち合ってもらい、栄養バランスの良いメニューを考える学習に取り組むこととした。また、自分のライフスタイルを考え、それに合った食生活を考えて卒業後の将来の具体的な食生活を考える機会とする学習内容にも取り組んでいる。

以上、本グループの生徒の実態と卒業後のライフスタイルを考え合わせると、家庭にある材料を使って栄養バランスのとれた一食分を調理することが課題として考えられる。自分の、あるいは家族の分の食事の献立を考え、買い物・準備・調理・片づけまでを自分一人で行う段階までにはほとんどの生徒が至っていないが、日頃台所に立つ習慣が身につけている生徒が多いため、市販のレシピを見て調理をする下地は十分に整っていると考えられる。同時に、支援を必要とするときに自分からどのように依頼をするか、そのやり方を学習することもあわせて課題となる。

今回の題材の「市販のレシピで作ろうー野菜炒め2ー」は本グループが今期第3回目の授業で行ったものの応用である。前回はレシピを見て食材の買いものをして調理を行ったが、今回は各自の家庭にある野菜を使って調理をする。日常の、そして卒業後の生活において、買いものに行かなくても家庭にある食材からメニューを考え、調理をすることは十分に考えられことである。また、野菜炒めは基本的な炒めものの主菜としてだけでなく、ラーメンや焼きそばの

具材としても使え、休日の昼食として実用化しやすいメニューと考えられる。

以上から、レシピ本を見ながら家庭にある野菜を使って野菜炒めを調理し、日常生活において家庭で継続的に自分から進んで調理をする動機づけになるであろう題材を設定する。

3 目標

- 1) 食生活に関して必要な知識と技能を身につけ、現在の生活に活かしながら卒業後の生活の準備をする。
- 2) 自ら進んで調理に取り組むことができる。

4 指導計画（本時4／7回）

回	実施日	主な内容	
		考える	つくる
1	1 / 11	「身支度について考える」	「市販のレシピで作ろう —さけのムニエル—」
2	1 / 18	「包丁の安全な扱い方を知る」	「市販のレシピで作ろう —チキンソテー—」
3	1 / 25	「栄養バランスのとれたメニューを考える」	「市販のレシピで作ろう —野菜炒め—」
4	1 / 27 (本時)	「家庭にある材料でメニューを考える」	「市販のレシピで作ろう —野菜炒め2—」
5	2 / 22	「きれいな盛りつけ方を考える」	「市販のレシピで作ろう —豚肉のしょうが焼き—」
6	2 / 29	「食事場面でのマナーを知る」	「市販のレシピで作ろう —ホイコウロウ—」
7	3 / 7	「自分の作った料理を友人に食べてもらおう —（第1回から第6回までのメニューから選択）—」	

5 本時の学習

1) 本時の目標

- (1) 調理に関する衛生、栄養について学び、将来の食生活を考える。
- (2) 家庭にある材料を使い、レシピ本を見ながら調理をすることができる。

2) 生徒の実態および目標・手だて

生徒	実態	個人目標	指導の手だて	関連する個別教育計画
A 高2 男	<ul style="list-style-type: none"> 自分でメニューや栄養バランスを考えることは家庭ではほとんどしていない。 毎日、ガス器具を使い、家庭で調理を行っている。 実習中のお弁当を自分で作ってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のメニューが栄養バランスのとれたものであることを知ることができる。 全員分の味噌汁を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のメニューの材料が5色バランス表の赤、白、黄、緑、黒のすべてに当てはまることわかるよう支援する。 自分の調理の合い間に味噌汁が作れるよう、時間配分に気をつけるよう声掛けをする。 	
B 高2 男	<ul style="list-style-type: none"> 週に何日かは食器並べを行っている。 週に何日かはレンジやトースターを使って調理をしている。 手順表やレシピを見て調理することを課題としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生面に気をつけて調理をすることができる。 <u>やり方がわからないときには自分から支援を求めることができる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 準備段階での服装、手洗い等のチェック表を用意する。 レシピ本の他に手順表を用意する。それを見ないで作業をするような場合には声掛けをする。 	指示が分からない時や困った時に、自分から支援を求めることができる。
C 高2 男	<ul style="list-style-type: none"> 調理をするスキルはあるが、家庭ではほとんど行っていない。休み期間にトースターを使っての簡単な調理をし、食器並べをする程度である。 家庭にある材料で献立を考えることを課題としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で工夫して調理に取り組むことができる。 レシピ本を見ながら調理をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> どの野菜をどのように調理するのか考える支援をする。 一つひとつの作業が終わったら報告をし、自分から次の作業を行えるよう支援する。 	家庭で調理できるレパートリーを増やす。
D 高2 女	<ul style="list-style-type: none"> 手順表やレシピを見て調理することは見守りでできる。 栄養バランスのとれたメニューを考えることが課題となっている。 後片付けが家庭での課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のメニューが栄養バランスのとれたものであることを知ることができる。 作業の合い間に片付けを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のメニューの材料が5色バランス表の赤、白、黄、緑、黒のすべてに当てはまることわかるよう支援する。 使った器具をその都度片付けることができるよう、声掛けをする。 	

※ _____ 下線は個別教育計画の目標との関連を示す。

3) 本時の展開

時間	学習内容	指導内容	留意点	個人目標	手だて
5	<ul style="list-style-type: none"> ・集合する。 ・挨拶をする。 ・本時の予定を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なものを持って調理室に集合する。 ・本時の授業内容がわかり、見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物は自分から報告できるように声掛けをする。 ・号令をかける【B】を指名する。 		
5	<ul style="list-style-type: none"> ・復習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生面で気をつけることを発表する。 ・本日のメニューの栄養バランスを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豚肉を扱ったあとに必ず手洗いすることを確認する。 ・【A】【D】 5色バランス表を見ながら、栄養バランスを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【B】 衛生面に気をつけて調理をすることができる。 ・【A】【D】 本時のメニューが栄養バランスのとれたものであることを知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【B】 準備段階での服装、手洗い等のチェック表を用意する。 ・【A】【D】 5色バランス表を用意する（事前学習でも使用する）。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の調理手順を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レシピ本を見ながら材料を確認する。 ・レシピ本を見ながら手順を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・順に材料を読み合わせる。 ・家庭から持ってきた野菜をそれぞれ確認する。 ・調理の手順を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【C】 自分で工夫して調理に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【C】 どの野菜をどのように扱うのか考える支援をする。
40	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜炒めを作る。 ・野菜炒めを盛りつける。 ・ご飯と味噌汁をよそう。 ・試食をする。 ・試食をしてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レシピ本を見て調理をする。 ・自分の分と食べてもらう人の分を別に盛りつける。 ・野菜炒めを友人、先生に食べてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【C】（授業前に） 米を研ぎ、炊飯器のスイッチを入れる。 ・【A】 全員分の味噌汁を作る。 ・レシピを見てやり方がわからないときは質問をするよう声をかける。 ・一つひとつの作業を正確に行うことができるよう見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【A】 全員分の味噌汁を作ることができる。 ・【B】 やり方がわからないときには自分から支援を求めることができる。 ・【C】 レシピ本を見ながら調理をすることができる。 ・【D】 作業の合い間に片付けを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【A】 時間配分に気をつけるよう声掛けをする。 ・【B】 レシピ本の他に手順表を用意する。 ・【C】 一つひとつの作業が終わったら報告をし、自分から次の作業を行えるよう支援する。 ・【D】 使った器具をその都度片付けることができるよう、声掛けをする。

10	<ul style="list-style-type: none"> ・片付けをする。 ・本時のまとめをする。 ・挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用したものを片付ける。 ・食器類を手洗いする。 ・野菜炒めを食べてもらった人に感想を聞きに行く。 ・食べてもらった人の感想を発表する。 ・調理実習評価表を記入する。 ・調理実習評価表を提出する。 ・授業の終わりを意識する。 ・持ちものを持ち、教室に帰る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内で片付けができるよう支援する。 ・丁寧に作業が行えるよう見守る。 ・号令をかける【B】を指名する。 ・忘れものがないことを確認する。 		
----	--	--	---	--	--

4) 準備物

手順表、レシピ本、調理実習評価表、まな板、包丁、ボール、ざる、フライパン、ふた、鍋、おたま、計量スプーン、計量カップ、食器かご、菜箸、茶碗、お椀、皿、箸

5) 評価

(1) 個人目標の評価

授業名：くらし（調理）		授業日：平成24年1月27日（金）		授業者：渡邊 聡	
生徒	個人目標	評価	コメント		
A	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のメニューが栄養バランスのとれたものであることを知ることができる。 ・全員分の味噌汁を作ることができる。 				
B	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生面に気をつけて調理することができる。 ・やり方がわからないときには自分から支援を求めることができる。 				
C	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で工夫して調理に取り組むことができる。 ・レシピ本を見ながら、調理することができる。 				
D	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のメニューが栄養バランスのとれたものであることを知ることができる。 ・作業の合い間に片付けを行うことができる。 				

評価の目的：・授業における個人の目標が達成できたかを評価する。
・次時の個人の目標設定の資料とする。

評価：○△×の3段階で行い、コメントがあれば加える。

(2) 授業の評価

授業名：くらし（調理）		授業日：平成24年1月27日（金）		授業者：渡邊 聡	
項目	評価内容			評価	
目標	1	本時の目標は達成できたか。			

	2	本時の目標は適切であったか。	
活動	3	本時の目標に合った学習活動であったか。	
手だて	4	教材が適切であったか。	
	5	教材の提示方法は適切であったか。	
	6	教材の使い方は適切であったか。	
	7	教示方法は適切であったか(わかりやすさ・口調など)。	
	8	子どもへの援助方法は適切であったか。	
	9	集団の統制は適切であったか。	
TT	10	子どもの反応の捉え方は適切であったか。	
	11	教員間の役割分担とその連携は適切であったか。	
学習環境	12	本時の時間配分は適切であったか。	
	13	場面の設定は適切であったか。	

評価の目的：本授業を評価することによって次の授業の資料とする。

評価：○△×の3段階で行い、コメントがあれば加える。

(3) 個別教育計画運用の評価

個別教育計画との関連事項							
生徒	個別教育計画からの目標	個人目標達成度評価	場面の適切性評価	手だて適切性評価	次時への課題	個別教育計画への課題	
A							
B	指示が分からない時や困った時に、自分から支援を求めることができる。						
C	家庭で調理できるレパートリーを増やす。						
D							

評価の目的：・個別教育計画からの目標と達成度、目標に対する手だて・指導場面が適切であったかを評価する。

・個別指導計画を見直す資料とする。

評価：○△×の3段階で行い、コメントがあれば加える。

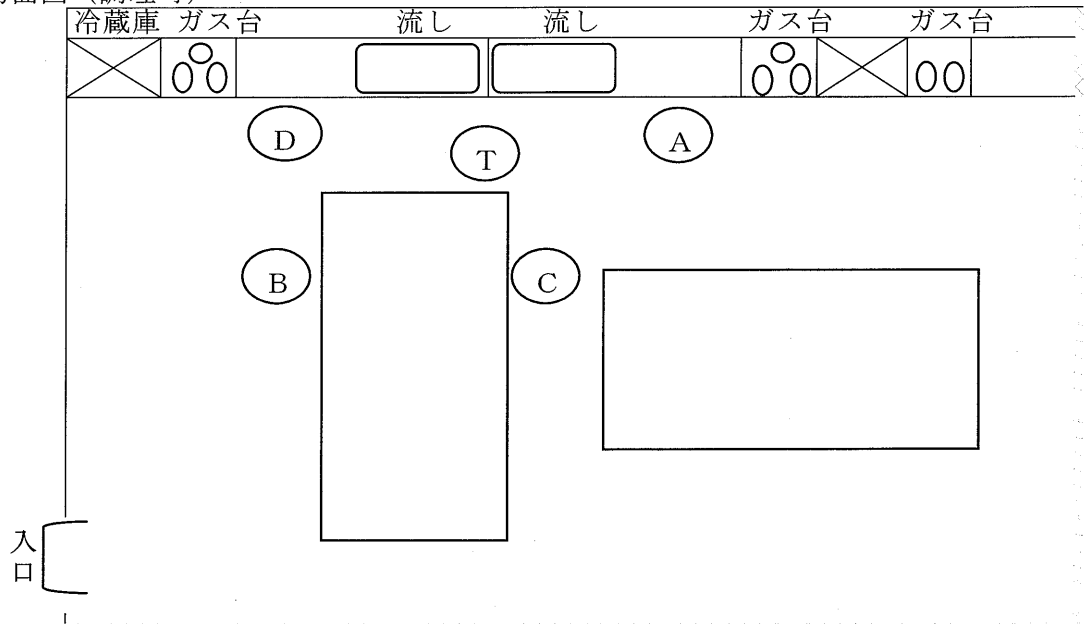
(4) 指導計画の評価

単元・題材名・授業名：くらし(調理)「レシピを見て作ろう」 総時間数：7 授業日：平成24年1月11日(水)～平成24年3月7日(水)		
指導形態に関して	指導内容に関して	時間数に関して

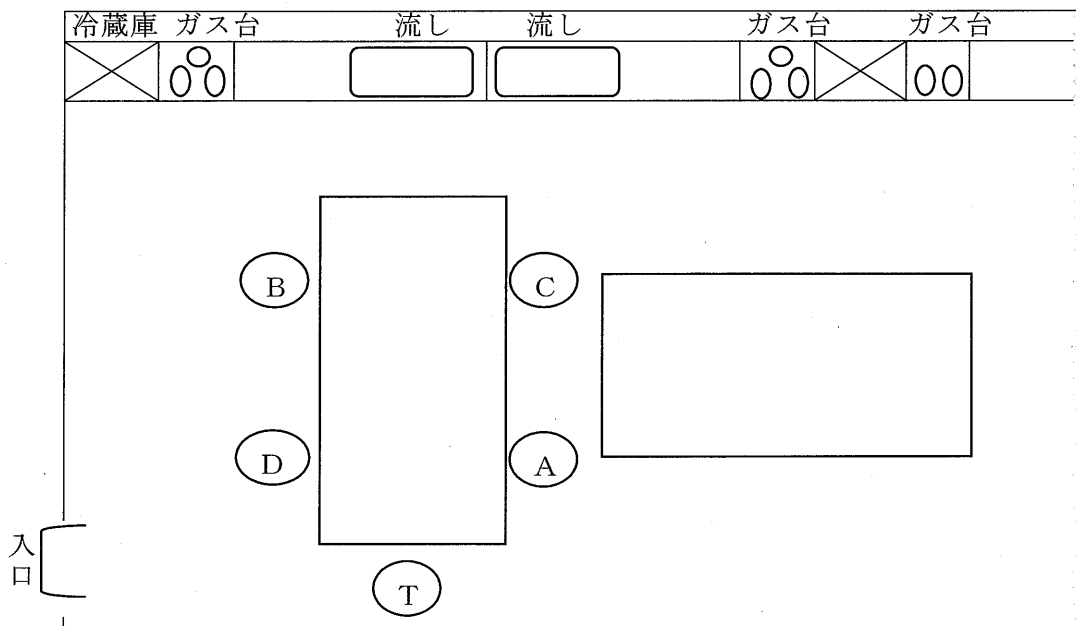
各評価項目ごとにコメントを記入する。

6 学習場面図

指導場面図（調理時）



指導場面図（着席時）



資料6 「調理」

ゴシヨク
5色チェック表
ヒヨウ

ナマエ
名前

平成 24 年 月 日 ()

シヨク ザイ 食材	アカ 赤	シロ 白	キ 黄	キナオ 緑	クロ 黒

資料7 「調理」

くらし (調理) ^{ちょうり} 準備 ^{じゅんび} 手順表 ^{てじゅんひょう} No. 1

1	^{いりぐち} 入口のマットで ^{あし} 足をトントンする
2	^て 手を ^{あら} 洗う
3	^て 手ふきタオルで ^て 手をふく
4	エプロンを ^き 着る
5	^{さんかくきん} 三角巾をつける
6	マスクをつける
7	^{にもつ} 荷物を ^{ちょうりしつ} 調理室の ^{そと} 外の ^{たな} 棚に ^お 置く
8	^{だい} 台ふきんでテーブルをふく
9	^{せき} 席につく

くらし (調理) ^{ちょうり} 準備 ^{じゅんび} 手順表 ^{てじゅんひょう} No. 2

10	^{せつめい} ^き 説明を聞く
11	^{ほうちょう} ^{いた} ^{めっきんこ} ^だ 包丁とまな板を滅菌庫から出す
12	^{ちょうり} ^き ^ぐ 調理器具をそろえる
13	^{しょつき} 食器をそろえる
14	^{ちょうり} 調理をはじめる

資料8 「調理」 実習評価表

高等部 くらし (調理)

平成____年____月____日 (____)

ちょうりじっしゅうひょうかひょう
調理実習評価表

なまえ
名前_____

※記入のしかた ◎;よくできた ○;できた △;少し・時々 ー;やらなかった

じゅんび 準備	じこひょうか 自己評価	せんせいひょうか 先生の評価
つめき 爪が切つてある		
てあら 手洗いをした		
エプロンを着た (三角巾、マスクも)		

ちょうり 調理	じこひょうか 自己評価	せんせいひょうか 先生の評価
えいせいめんき 衛生面に気をつけた		
レシピを見て調理した		
ほうちょうあんぜんつか 包丁が安全に使えた		
ガスコンロが安全に使えた		
盛りつけがきれいにできた		

あとかたづけ 後片付け	じこひょうか 自己評価	せんせいひょうか 先生の評価
しよつきあら 食器を洗った		
ながだい 流し台、ガスコンロをきれいにした		
ゴミ捨てをした		

いよくたいど 意欲・態度	じこひょうか 自己評価	せんせいひょうか 先生の評価
いよくてき 意欲的にできた		
わからないときに質問ができた		

つく 作ったもの	
ざいりょう 材料	

た 食べてもらった人の感想	
じゅぎょうかんそう 授業の感想	
せんせい 先生のコメント	

資料9 「調理」 レシピ (野菜炒め)

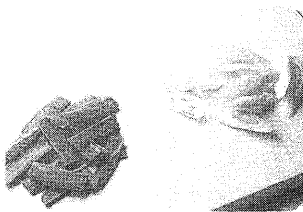
はじめての料理ベスト15

野菜炒め

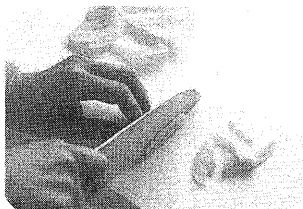
材料
2人分

豚ロース薄切り肉 …… 100g にんにく …… 1片
 にんじん …… 30g サラダ油 …… 大さじ1
 ねぎ …… ½本 塩 …… 小さじ½
 キャベツ …… 大3枚(300g) こしょう …… 少々

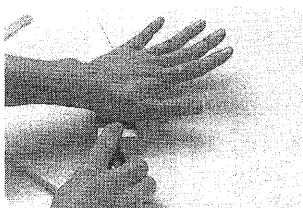
下ごしらえをする



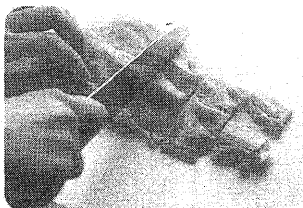
1 にんじんは短冊切り、ねぎは斜め切りにする。→188・189ページ参照



2 キャベツは葉とかたい軸を切り分け、葉は大きめのざく切り、軸は薄く切る。

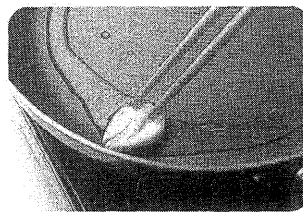


3 にんにくは包丁の腹を当てて押しつぶす。

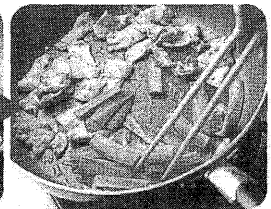
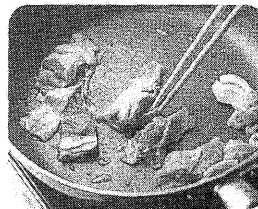
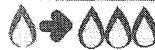


4 豚肉は3~4cm幅くらいの食べやすい大きさに切る。

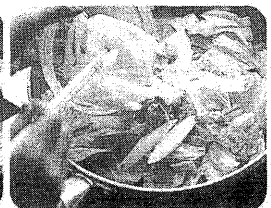
炒める



5 フライパンを少し傾けてサラダ油とにんにくを弱火で熱し、香りが立ったら強火にする。



6 豚肉を入れてほぐしながら炒め、にんじんを加えて炒め合わせる。



7 キャベツの軸、葉、ねぎの順番に加えて、全体を混ぜながら炒める。



8 油がまわったら塩、こしょうをふって味を調べ、ざっとひと炒めして、器に盛る。



塩	こしょう
小さじ½	少々

23 🔥 弱火 🔥 中火 🔥 強火

いちばんやさしい基本のおかず 検美崎 聡美 成美堂出版 p.23

くらし実技「被服」学習指導案

日 時：平成24年1月27日（金）10：20～11：20

場 所：個別学習室・くらしの学習室

対 象：高等部1年10名（男子5名、女子5名）

指導者：會澤加奈子（MT）高野裕美（ST1）松本晃（ST2）

1. 題材名 「すてき！かいてき！わたしの服」

2. 授業設定の理由

本校高等部では、生徒の生活支援に関する内容を扱う中心的な教科として「くらし」がある。卒業後の自分自身の暮らし方、さらには生き方を主体的に考え、選択し体験を重ねる学習が独自の授業内容をもつものと捉え、独立した授業形態「くらし」として設定している。

「くらし」は「調理」「被服」「住まい」「生活知識」という4分野で構成されている。その中で実践的な活動を通じた技能や技術面の習得に重点を置いた「調理」「被服」「住まい」の3分野を「くらし実技編」と総称して、週一回約2単位時間（110分）の授業を設定している。

（一年を3期に分け、クラスごとに各分野を6、7回学習する。）一方、経済生活、安心なくらし、地域生活、人付き合い等に関する社会生活に必要な幅広い知識を身につけることを中心的な内容とする「生活知識」の分野を週一回約1単位時間（60分）設定している。

本時で扱う「被服」では、「洗濯」「裁縫」「服装」（学習内容一覧表参照）の3つの内容について、合わせて約30の学習項目を設定している。これらを基に、本人のニーズや保護者のアンケート、学年の特性等をふまえ、指導計画を立てている。

本授業の対象者は高等部1年生10名である。高等部に上がり、身だしなみの大切さを少し理解しはじめている。また、家庭での自分の役割への意識も高まってきている。しかし、自分の服への関心は乏しく、自分で着るものを選ぶことや、自分で衣類を管理していく意識はまだ薄い。「被服」分野の技能の習得や家庭における実践状況はまちまちであるが、時々洗濯の一部分（洗濯物の取り込み、たたみ、収納）を行っているものの、家庭における自分の役割として日常的に行っている生徒は少ない。また、学校や実習先の更衣室の使い方では、狭いスペースで素早く着替えることが苦手な生徒や、衣類のたたみ方や収納の仕方に課題がある生徒もいる。このような生徒の実態や学年の特性をふまえ、生活に必要な服について考え、基本的な衣類の手入れができることを中心に指導計画を作成した。

本題材は全7回で構成されている。1時間目では、自分の好きな服について考え、服への関心を高めた。2、3時間目では服の清潔や身だしなみの観点から、衣類の手入れの必要性について考え、洗濯の一連の流れ（洗う、干す、取りこむ、たたむ、収納する）を実践に実践した。

本時では、「たたむ、収納する」を行う。洗濯の中でも「たたむ、収納する」は、生徒が家庭の自分の役割として取り組みやすく、学校や卒業後の就職先でも着替える場面があり必要とされる。前半では、しわのある服としわのない服を比較し、自分がどちらを着たいか選択したり、他者から見られる自分について考える。そして、きちんと「たたむ、収納する」ことにより、衣類を清潔に保つことや、衣類にしわがつきにくくなることを学習する。後半では、課題別に3つのグループに分かれて実践する。「収納場所に合わせたたたむ」では、色々なたたみ方を経験し、形状の異なる収納家具や袋に衣類を収納する。収納場所に応じてどのたたみ方が適しているか考える。「体を台にしてたたんで収納する」では、更衣室の場面を設定し、机等に衣類を広げずに、体を台にしたたたみ方を習得する。また、なぜそのたたみ方が更衣室ではよいのかを考える。「丁寧にたたんでしっかり収納する」では、自分の服をたたんで収納することを繰り返し学習する。たたむ際に補助具を使ったり、収納場所にマークや衣類の形を示す工夫をした。

「被服」の授業では、生徒によっては手順表を準備し、手順表を見て一人で進められるような支援を行う。手順表は、家庭でそのまま使えるように、見やすく使いやすいように工夫した。また、分からない時や困った時の相談の仕方や方法を学習することも重視している。「被服」の学習をきっかけに、自分の服に関心をもち、自分の衣生活を自分のこととして捉えられること、また、学習が生活の場での実践に繋がることを期待する。

3. 目標

○自分の服に関心をもち、服の清潔や身だしなみの大切さがわかる。

○衣類の手入れの実践的な活動を通して、生活に必要な知識と技能を身につけ、生活にいかす。

4. 指導計画

回数	実施日	学習内容		
		知識、関心、意欲	技能	
1	1 / 1 1	自分の好きな服		
2	1 / 1 8	服の清潔と身だしなみ①	衣類の洗濯① (洗濯の一連の作業)	
3	1 / 2 5	服の清潔と身だしなみ②	衣類の洗濯② (洗濯の一連の作業)	
4	1 / 2 7	服の清潔と身だしなみ③	衣類の洗濯③ (たたむ・収納する)	本時
5	2 / 2 2	服の清潔と身だしなみ④	衣類の修繕① アイロンがけ	
6	2 / 2 9	服の清潔と身だしなみ⑤ 衣類の購入の仕方①	衣類の修繕② 自分のサイズ	
7	3 / 7	衣類の購入の仕方②	衣類の購入	

5. 本時の学習

1) 本時の目標

○衣類をたたみ収納することの大切さがわかる。

○たたむ場所や収納場所に応じたたたみ方、収納ができる。

2) 個人目標

生徒	実態	個人目標	指導の手だて	個別教育計画の目標
A 男子	毎日家で自分の洗濯物をたたみ、収納まで行っている。たたみ方も丁寧である。	○自分が着て気持ちよい衣類を選ぶことができる。 ○収納場所に合ったたたみ方ができる。	○しわのある服と、ない服を着てどちらが心地よいか体感させる。 ○何種類かのたたみ方を経験させ、収納場所にどのたたみ方が合うか体験させる。	
B 女子	家では時々洗濯物たたみをしているが、収納はしていない。学校の更衣室では、机に衣類を広げて服をたたんでいる。	○時間をかけずに着替えることの大切さがわかる。 ○狭いスペースでたたむことができる。	○実習先での着替えの場面を例にあげ、素早く着替えることを意識させる。 ○スペースを区切り、その中でたためるように促す。	
C 男子	家では時々自分の洗濯物をたたんで収納している。学校でも丁寧にたたんでいる。身だしなみが乱れることが時々ある。	○衣類の身だしなみの大切さがわかる。 ○時と場所に応じたたたみ方が実践できる。	○身だしなみが整っていない人を見た感想を発表させる。 ○何種類かのたたみ方を経験させ、収納場所にどのたたみ方が合うか体験させる。	
D 男子	衣類をたたむ意識はあり、収納場所もマーク等で見分けて決まった場所にしまうことができる。	○自分が着たい服を選ぶことができる。 ○丁寧にたたむ意識をもち、決まった場所に収納できる。	○しわのない服と、ある服を着てどちらが良いか選ばせる。 ○補助具を用いてたたみやすくし、収納場所には衣類の大きさの枠を設定する。	
E 女子	家では週に一度だけ自分の衣類をたたみ、収納している。学校の更衣室では、ロッカーの上に衣類を広げてたたんでいる。	○服を丁寧にたたむことや収納することの大切さがわかる。 ○自分の体を台にしてたたむことができる。	○しわのついた服と、しわのない服の比較や、虫食いの衣類を見せる。 ○更衣室の場面を設定し、図入りの手順表を用いる。	

F 女子	時々家で自分の洗濯物をたたみ、収納している。たたみ方も丁寧である。学校の更衣室では、着替えに少し時間がかかっている。	○服を丁寧にたたむことや収納することの大切さがわかる。 ○時と場所に応じたたたみ方が実践できる。	○しわのついた服と、しわのない服の比較や、虫食いの衣類を見せる。 ○何種類かのたたみ方を体験させ、収納場所にどのたたみ方が合うか体験させる。	
G 男子	毎日家で自分の洗濯物をたたみ、収納している。たたみ方は乱れることが多く、学校でもたたんだ服がしわになってしまうことがある。	○自分の服を大切にできる意識をもつことができる。 ○決まったやり方でたたみ、決まった場所に収納することができる。	○乱れた収納や、しわになった衣類を見せてよし悪しを判断させる。 ○決められたたたみ方を促し、収納場所には衣類の大きさの枠を設定する。	
H 女子	家では、毎日自分で洗濯をしているが、たたみ・収納はしていない。学校の更衣室では、ロッカーの上に衣類を広げてたたみ、時間がかかっている。	○自分が着て気持ちよい衣類を選ぶことができる。 ○自分の体を台にしてたたむことができる。	○しわのある服と、ない服を着てどちらが心地よいか体感させる。 ○更衣室の場面を設定し、図入りの手順表を用いる。	時計を見て行動できる。
I 女子	家では時々家族の洗濯物をたたんでいるが、収納している。たたみ方は丁寧である。学校の更衣室では着替えるのに時間がかかっている。	○時間をかけずに着替えることの大切さがわかる。 ○決まったやり方でたたむことができる。	○実習先での着替えの場面を例にあげ、素早く着替えることを意識させる。 ○更衣室の場面を設定し、図入りの手順表を用いる。	家族全員の洗濯ものをたたむ。
J 男子	家では毎日自分の洗濯物をたたんでいるが、収納はしていない。学校の更衣室では急ぐがゆえに収納が乱れることがある。	○衣類の収納の大切さがわかる。 ○たたんだ後と収納した後に乱れないか確認ができる。	○しわのついた服と、しわのない服の比較や、虫食いの衣類を見せる。 ○手順表に確認の項目を表記する。	髪、ネクタイ、爪、ひげをチェックする。

(3) 準備物

しわのないTシャツ、しわのついたTシャツ、姿見、手順表、クローゼット、収納BOX、セーター、トレーナー、Tシャツ、ズボン、くつした、ハンカチ、たたみ方支援シート

(4) 展開

時間	学習活動	指導内容	留意点	個人の目標	手立て
授業前	○くらしの学習室1に集合する。	○必要な持ち物を準備することができる。			
3分	○本時の予定(授業全体の流れ)を確認する。	○本時の活動内容がわかり、見通しがもてる。	○ホワイトボードに本時の予定を板書する。		

2 2 分	<p>○服のしわについて考える。</p> <p>○「たたむ、収納する」ことについて考える。</p> <p>○時と場所に応じたたたみ方について考える。</p>	<p>○しわのついた服について考えることができる。</p> <p>○「たたむ、収納する」について考えることができる。</p> <p>○時と場所に応じたたたみ方について考えることができる。</p>	<p>○しわのついた服を用いて自分や相手はどう思うか考えさせる。</p> <p>○たたみ方や収納場所の例をあげる。</p> <p>○家庭や更衣室の例をあげる。</p>	<p>○自分が着て気持ちよい衣類を選ぶことができる。</p> <p>【A、D、H】</p> <p>○衣類の身だしなみの大切さがわかる。</p> <p>【C】</p> <p>○服を丁寧にたたむことや収納することの大切さがわかる。</p> <p>【E、F、J】</p> <p>○自分の服を大切にすることの大切さをもつことができる。【G】</p> <p>○時間をかけずに着替えることの大切さがわかる【B、I】</p>	<p>○しわのある服と、ない服を着てどちらが心地よいか体感させる。</p> <p>【A、D、H】</p> <p>○身だしなみが整っていない人を見た感想を発表させる。【C】</p> <p>○しわのある服と、ない服の比較や、虫食いの衣類を見せる。</p> <p>【E、F、G、J】</p> <p>○実習先での着替えの場面を例にあげ、素早く着替えることを意識させる。【B、I】</p>
2 5 分	<p>「収納場所に合わせたたたむ」【A、C、F、J】</p> <p>○色々なたたみ方を体験する。 ※以下を繰り返して行う。</p> <p>○収納場所に合わせた衣類をたたむ。</p> <p>○取り出しやすさや見やすさを確認する。</p> <p>「体を台にしてたたんで収納する」【E、H、I】</p> <p>○更衣室でのたたみ方について考える。</p> <p>※以下を繰り返して行う。</p> <p>○手順表に従って衣類をたたんで収納する。</p> <p>○実践を振り返る。</p>	<p>○色々なたたみ方ができる。</p> <p>○収納場所に合わせたたたみ方ができる。</p> <p>○取り出しやすさや見やすさを確認できる。</p> <p>○更衣室に適したたたみ方について考えることができる。</p> <p>○手順表に従って衣類をたたんで収納することができる。</p> <p>○実践を振り返ることができる。</p>	<p>☆MTが担当</p> <p>○色々なたたみ方の手順表を用意する。</p> <p>○設定された収納場所に衣類を収納させる。</p> <p>○どんなことに気をつけてたたんだかを発表させる。</p> <p>☆ST1が担当</p> <p>○更衣室の場面を設定し、どのようにたたんだらよいか考えさせる。</p> <p>○手順表を用意する。</p> <p>○教員がアドバイスをする。</p>	<p>○収納場所に合ったたたみ方ができる。</p> <p>【A】</p> <p>○時と場所に応じたたたみ方が実践できる。【C、F】</p> <p>○たたんだ後と収納した後に乱れがないか確認ができる。【J】</p> <p>○自分の体を台にしてたたむことができる。【E、H】</p> <p>○きまったやり方でたたむことができる。【I】</p>	<p>○何種類かのたたみ方を体験させ、収納場所にどのたたみ方が合うか体験させる。</p> <p>【A、C、F】</p> <p>○手順表に確認の項目を表記する。【J】</p> <p>○更衣室の場面を設定し、図入りの手順表を用いる。</p> <p>【E、H、I】</p>

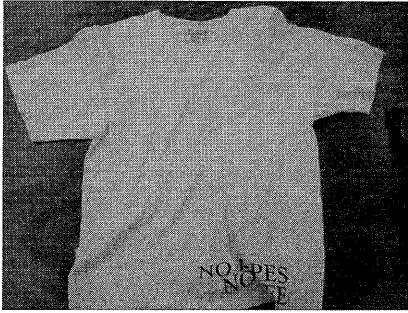
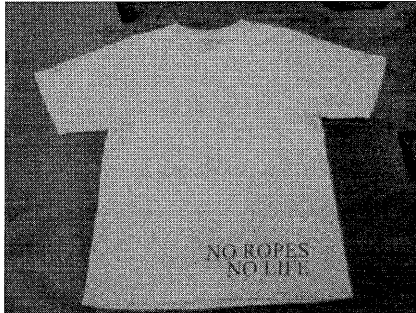
	<p>「丁寧にたたんでしっかり収納する」</p> <p>【B、D、G】</p> <p>○たたみ方と収納の仕方の見本を見る。</p> <p>※以下を繰り返して行う。</p> <p>○たたんで収納する。</p> <p>○実践を振り返る。</p>	<p>○正しいたたみ方と収納の仕方がわかる。</p> <p>○たたんで収納する。</p> <p>○実践を振り返ることができる。</p>	<p>☆ST2が担当</p> <p>○正しいたたみ方と収納の仕方の見本を示す。</p> <p>○個々の注意点を意識させる。</p> <p>○よくできた時には称賛する。</p>	<p>○狭いスペースでたたむことができる。</p> <p>【B】</p> <p>○丁寧にたたむ意識をもち、決まった場所に収納できる。</p> <p>【D】</p> <p>○決まったやり方でたたみ、決まった場所に収納することができる。【G】</p>	<p>○スペースを区切り、その中でたためるように促す。【B】</p> <p>○補助具を用いてたたみやすくし、収納場所には衣類の大きさの枠を設定する。【D】</p> <p>○決められたたたみ方を促し、収納場所には衣類の大きさの枠を設定する。【G】</p>
10分	○本時のまとめをする。	○本時の取り組み振り返り、次回の授業や生活での実践につなげることができる。	○生徒に実際に家や学校でやってみたいか、何に気をつけるか等を再度尋ねる。		

5) 評価 (「調理」指導案の評価に準ずる)

④きれいにたたむ！きれいにしまう！

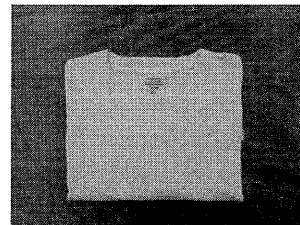
平成24年 月 日 () 名前

〇しわくちやの服ふくとしわのない服ふく、あなたはおもどう思う？

しわくちやの服 <small>ふく</small>	しわのない服 <small>ふく</small>
	
<p>どう<small>おも</small>思う？</p>	<p>どう<small>おも</small>思う？</p>

〇あなたはふくどきちの服きを着きたいですか？ (着きたいほうの写しやしん真しんに〇をつけてね)

〇しわがつかないためにはどうしたらいいかな？



☆しわがふくない服きを着ると、自分も相手もじぶん気あいて持きもちがきもいいね！

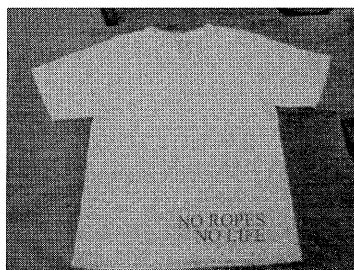
感想	よくわかった()	すこしわかった()	むずかしかった()
----	-----------	------------	------------

④きれいにたたむ！きれいにしまう！

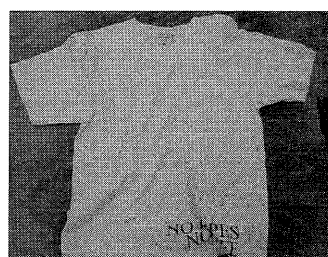
平成24年 1月27日（金）

名前

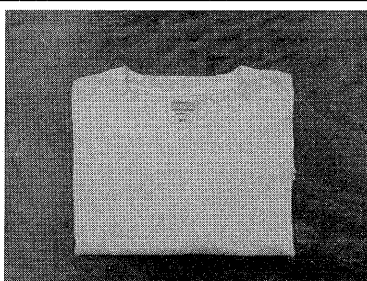
〇きもちがいいのはどっち？



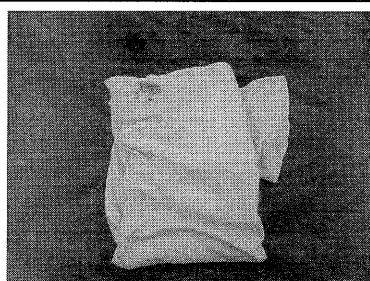
きれい



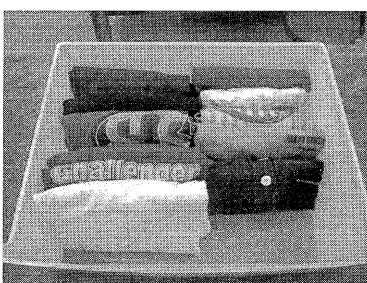
しわくちゃ



きれいにたたむ



ぐちゃぐちゃにたたむ



きれいにしゅうのう



ぐちゃぐちゃにしまう

しわのないふくはきもちがいいね！

かんそう
感想



たのしかった



がんばった



むずかしかった

いるい あ かた
衣類に合ったしまい方

平成24年	月	日	名前
-------	---	---	----

○服にはたくさんの種類があります。色んな服をしまってみよう！

○チェック！！

ハンガーに肩を合わせてかけることができた	一人でできた	・	挑戦中
しわにきをつけてていねいにたたむことができた	一人でできた	・	挑戦中
きれいにしまうことができた	一人でできた	・	挑戦中

○ハンガーにかけた服はどれ？

○たたんだ服はどれ？

○ハンガーにかけた服とたたんだ服、どんな特徴とくちょうがあるかな？

ハンガーにかけた服	
たたんだ服	

☆ 衣類に合ったしまい方(ハンガーにかけるかたたむか)を自分で考えてやってみよう！

感想	
先生から	保護者サイン

くらし実技「被服」H23高1

ばめん あ かた
場面にあったたたみ方

平成24年	月	日	名前
-------	---	---	----

からだ だい
 ○体を台にしてたたむ（ささっとたたみ）はどんな時に使えるかな？

ばめん あ かた
 ○場面にあったたたみ方にチャレンジ！！

1 **更衣室でのたたみ方**

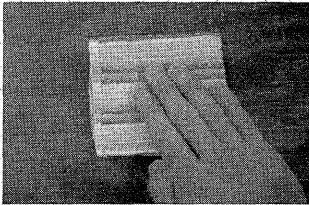
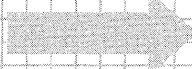
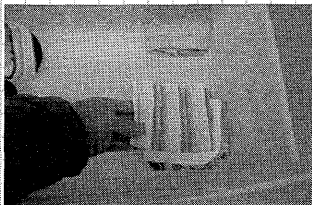
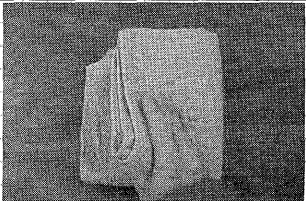
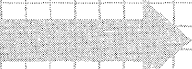
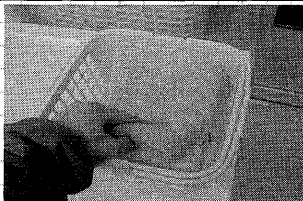
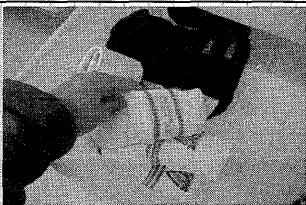




ポイント	せまい場所でもささっとたたみたい！
たたみ方	
たんだ感想	ひとり 一人でできた ・ ちょうせんちゆう 挑戦中
チェック	<input type="checkbox"/> しわにきをつけてたためた <input type="checkbox"/> きれいにしまった

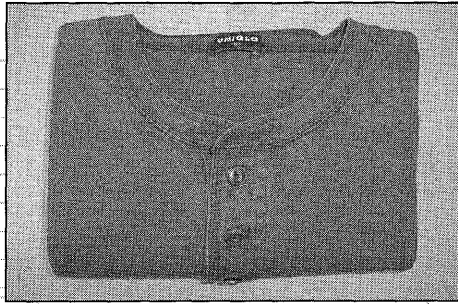
2 **家で洗濯物をたたむ時のたたみ方**

ポイント	きれいに収納できる！ 自分に合っている！
たたみ方	
たんだ感想	ひとり 一人でできた ・ ちょうせんちゆう 挑戦中
チェック	<input type="checkbox"/> しわにきをつけてたためた <input type="checkbox"/> きれいにしまった

かた な ばめん ぼしょ あ かた
 ☆いろいろなたたみ方に慣れて、場面や場所に合ったたたみ方をやってみよう！

先生から	保護者サイン
------	--------

くらし実技「被服」 H23高1			
服を ^{ふく} たたむ しまう			
がつ 月	にち 日	ようび 曜日	なまえ 名前
はんかち		じぶん	せんせい
 <p>たたむ</p>		 <p>しまう</p>	
たおる		じぶん	せんせい
 <p>たたむ</p>		 <p>しまう</p>	
くつした		じぶん	せんせい
 <p>しまう</p>			
しゃつ		じぶん	せんせい
 <p>しまう</p>			
かんそう			
 <p>たのしかった</p>	 <p>むずかしかった</p>	 <p>がんばった</p>	
先生から		保護者サイン	

くらし実技「被服」 H23高1					
<small>ふく</small> 服をたたむ					
<small>がつ</small> 1月		<small>にち</small> 27日		<small>きんようび</small> 金曜日	
				<small>なまえ</small> 名前	
<small>きょう がくしゅう</small> 今日の学習			ブティックたたみをおぼえよう		
					
<small>かんせいず</small> 完成図					
<small>かいすう</small> 回数		<small>じぶん ひょうか</small> 自分の評価(きれい:○ くちやくちや:—)		<small>せんせい ひょうか</small> 先生の評価	
<small>かいめ</small> 1回目					
<small>かいめ</small> 2回目					
<small>かいめ</small> 3回目					
<small>かいめ</small> 4回目					
<small>かいめ</small> 5回目					
<small>かいめ</small> 6回目					
<small>かいめ</small> 7回目					
<small>かいめ</small> 8回目					
<small>かいめ</small> 9回目					
<small>かいめ</small> 10回目					
かんそう					
先生から				保護者サイン	

資料 17 「住まい」学習指導案

高等部 生活支援

くらし「住まい」学習指導案

日 時：平成24年1月27日（金）10：20～11：20

場 所：レインボーハウス（宿泊訓練棟）

対 象：高等部3年10名（男子5名、女子5名）

指導者：小島啓治（MT） 山本由佳（ST1）

木村有理（ST2）

1. 題材名 「将来の住まいを考えよう」

2. 授業設定の理由

本校高等部では、生徒の生活支援に関する内容を扱う中心的な教科として「くらし」がある。卒業後の自分自身の暮らし方、さらには生き方を主体的に考え、選択し体験を重ねる学習を独立した授業形態「くらし」として設定している。

「くらし」は「調理」「被服」「住まい」「生活知識」という4分野で構成されている。その中で実践的な活動を通じた技能や技術面の習得に重点を置いた「調理」「被服」「住まい」の3分野を「くらし実技編」と総称して、週一回約2単位時間（110分）の授業を設定している。

（一年を3期に分け、クラスごとに各分野を6、7回学習する。）一方、経済生活、安心なくらし、地域生活、人付き合い等に関する社会生活に必要な幅広い知識を身につけることを中心的な内容とする「生活知識」の分野を週一回約1単位時間（60分）設定している。本時で扱う「住まい」の学習内容は「拭き掃除」「掃き掃除」「掃除応用編」「住まいのこと」の4領域で構成されている。計38の項目（具体的な学習内容）を基にして本人・保護者へのアンケートをふまえて、指導計画が編成されている。

本授業の対象者は高等部3年生10名である。1、2年時には全員が掃き掃除、拭き掃除の他、本人・保護者の希望に応じてトイレ、洗面所、シンク、風呂、ガス台等の掃除を学習してきた。技能の習得や家庭での実施状況は生徒によってまちまちであるが、特に今期は卒業を間近に控えた時期でもあることから、卒業後の生活に現実的につながる個別の課題や将来の生活を考えたり、具体的なイメージをもてるような学習内容に取り組んでいる。本人の希望としては、10名中2名が卒業後いつか一人暮らしをすることを望んでいる。2名はグループホーム等での仲間との共同生活を希望している。しかし、その実態は自己理解が不十分であったり、具体的な生活のイメージをもつことが難しいことから、漠然とした憧れとして考えている生徒が多い。

「くらし」の授業では「自分から進んで行う生活」「生活の主体者は自分」という意識を高めるための授業づくりを目指している。生徒は「住まい」の授業に対して、単に「掃除技能の訓練」というイメージをもつ傾向が強く、更に掃除は「汚いもの」「面倒なもの」と捉えがちである。そこで、まず「住まい」のメインテーマを「健康的で快適な住まいをつくる」と設定した。その上で原則一回の授業を前後半に分け、前半は「健康的で快適なすまいを創造する（クリエイト）」をテーマとし、自分の住まいを身近に感じること、将来の生活に憧れや見通しをもてることを期待して、学習活動を設定している。そして授業後半は、「健康的で快適な住まいを維持する（ハウスキーピング）」とし、掃除の仕方に加えて、住まいを維持するために必要な様々な知識や技能の習得をねらった活動を設定している。実際の活動では主体的な取り組みを促すために、生徒の実態に応じてワークシートや手順表の内容を工夫したり、様々なところで本人が選択する機会を保障したりしている。具体的な技能面での課題は、個別教育計画の目標との関連を図るとともに、家庭での住環境、保護者の掃除のやり方や使用している道具等の情報を収集して一人ひとりに応じたものを設定するように工夫している。また「くらし」の授業では、「できることを増やす」「自分でできることは自分でする」ことを目指すと共に、生徒が支援を必要とする時どのように依頼してよいのか、分からない時の質問、困った時の相談の仕方や方法を学習することも重視している。

3. 目標

- 卒業後の生活のイメージを深めたり、自分の将来について考えたりすることができる。
- 現在および卒業後の想定される生活や住環境等に応じた暮らしに必要な知識と技能を身につけ、今の生活にいかしながら、卒業後の生活の準備をする。

4. 指導計画

1) 授業計画 (本時 4 / 7 回)

回数	実施日	学習内容		
		「健康的で快適な住まいを創造する (クリエイト)」	「健康的で快適な住まいを維持する (ハウスキーピング)」	
1	1 / 11	将来の「暮らしの場」	布団干し、ベッドメイキング	
2	1 / 18	住みたい家探し	洗面台の掃除	
3	1 / 25	住まいに必要なもの	ガス台の掃除	
4	1 / 27	住まいのトラブル	蛍光灯、電球、電池	本時
5	2 / 22	安心、安全な住まい	冷暖房器具の使用法、手入れ	
6	2 / 29	自分らしい「生活」	生活を彩る工夫 (花を生ける、絵画を飾る等)	
7	3 / 7	まとめ	まとめ	

5. 本時の学習

1) 本時の目標

- 住まいに関するトラブルを想定し、その対処法について考える。
- 蛍光灯、電球、電池等の取り替え等に関する基本的な知識や方法を知り、自分から進んで取り組むことができる。

2) 生徒の実態・目標および手だて

生徒	実態	個人目標	指導の手だて	関連する個別教育計画の目標
A	本人は将来親との同居を希望している。家庭では毎日風呂掃除、洗濯物の取り込み、収納を行っている。	○住まいに関するトラブルについて、自分でできることを考えたり、知識を深めたりする。 ○電池の交換をすることができる。	○実態に応じてワークシートの形式を工夫する。画像や実物を提示する。 ○プリントで名称や気をつけることを確認してから、モデルを提示する。	
B	本人は将来親との同居を希望している。家庭では毎日風呂掃除、タオルたたみを行っている。	○住まいに関するトラブルについて、自分でできることを考えたり、知識を深めたりする。 ○電球の交換をすることができる。	○実態に応じてワークシートの形式を工夫する。 ○プリントで名称や気をつけることを確認してから、モデルを提示する。	
C	本人は将来親との同居を希望している。家庭では毎日風呂掃除と、週2回のトイレ掃除を行っている。	○住まいに関するトラブルについて、自分でできることを考えたり、知識を深めたりする。 ○電池の交換をすることができる。	○実態に応じてワークシートの形式を工夫する。画像や実物を提示する。 ○プリントで名称や気をつけることを確認してから、モデルを提示する。	○卒後の生活をイメージし、努力をする。
D	本人はグループホームでの生活を希望している。毎日風呂掃除を行っている。	○住まいに関するトラブルについて、自分でできることを考えたり、知識を深めたりする。 ○電池の交換をすること	○実態に応じてワークシートの形式を工夫する。画像や実物を提示する。 ○プリントで名称や気	○自分の仕事 (役割) に責任をもつことができる。

		ができる。	をつけることを確認してから、モデルを提示する。	
E	本人は将来親との同居を希望している。家庭では毎日風呂掃除、週末に玄関掃除、洗濯を行っている。	○住まいに関するトラブルについて、自分でできることを考えたり、知識を深めたりする。 ○電球の交換をすることができる。	○実態に応じてワークシートの形式を工夫する。画像や実物を提示する。 ○プリントで名称や気をつけることを確認してから、モデルを提示する。	
F	本人は将来グループホームでの生活を経て、一人暮らしをすることを希望している。家庭では週2、3回の風呂掃除、週1、2回の自室の掃除、食器洗い等を行っている。	○住まいに関するトラブルについて、自分でできることを考えたり、知識を深めたりする。 ○蛍光灯の交換をすることができる。	○実態に応じてワークシートの形式を工夫する。 ○プリントで名称や気をつけることを確認してから、モデルを提示する。	
G	将来の生活を想定することはまだ難しいが、本人はグループホームでの生活に興味をもっている。2日に一回風呂掃除、週末にトイレ掃除等を行っている。	○住まいに関するトラブルについて、自分でできることを考えたり、知識を深めたりする。 ○電池の交換をすることができる。	○実態に応じてワークシートの形式を工夫する。画像や実物を提示する。 ○プリントで名称や気をつけることを確認してから、モデルを提示する。	
H	本人は将来一人暮らしをすることを希望している。家庭では週末に風呂掃除を行っている。	○住まいに関するトラブルについて、自分でできることを考えたり、知識を深めたりする。 ○蛍光灯の交換をすることができる。	○実態に応じてワークシートの形式を工夫する。 ○プリントで名称や気をつけることを確認してから、モデルを提示する。	
I	将来の生活を想定することはまだ難しいが、本人はグループホームでの生活に興味をもっている。家庭では時々テーブル拭きを行っている。	○住まいに関するトラブルについて、自分でできることを考えたり、知識を深めたりする。 ○電池の交換をすることができる。	○実態に応じてワークシートの形式を工夫する。画像や実物を提示する。 ○プリントで名称や気をつけることを確認してから、モデルを提示する。	
J	本人は将来グループホームでの生活を希望している。家庭では2日に一回風呂掃除と、毎日雨戸閉めと洗濯物干しを行っている。	○住まいに関するトラブルについて、自分でできることを考えたり、知識を深めたりする。 ○蛍光灯の交換をすることができる。	○実態に応じてワークシートの形式を工夫する。 ○プリントで名称や気をつけることを確認してから、モデルを提示する。	

3) 準備物

ワークシート（「住まいのトラブルQ&A」用紙と回答例、蛍光灯・電球・電池のワークシート、ふり返し用ワークシート）、手順表（各生徒に応じて必要なもの）、板書カード、ポスター（前時まで学習したこと）、蛍光灯・電球・電池取り替え練習用道具一式

4) 本時の展開

時間	学習活動	指導内容	留意点	個人の目標	手だて
5	○本時の予定を聞く。 ○前時まで	○本時の活動内容がわかり、見通しをもつ。 ○前時までの学習を思	○予定を板書する。 ○各生徒が選んだ物件や間		

	の復習をする。	い出し、本時の学習に期待をもつ。	取り等の画像を提示する。 ○「住まい」のテーマ「健康的で快適な住まいをつくる」を確認する。 ○「だれと、どこに住むか」に関わらず、「できることは自分です」「できないことは支援を求める」ことは同じであることを確認する。		
10	○各自ワークシート 「住まいのトラブルQ & A」に答える。	○住まいに関するトラブルを想定して、その対処法を考える。	○本時で扱うトラブルは、ガラスが割れた時、照明等がつかない時、リモコンが動かない時等、想定しやすい内容や今期学習する実技につながる内容に限定する。 ○生徒の実態に応じて、ワークシートを自由記述のものを選択式のものを用意する。 ○また設問数を変えたり、必要に応じて画像や実物を用意し、イメージをもちやすいように工夫する。	【全員】住まいに関するトラブルについて、自分でできることを考えたり、知識を深めたりする。	【全員】実態に応じてワークシートの形式を工夫する。 【ACDEGI】画像や実物を提示する。
10	○ワークシートの解説をする。	○自分に合ったトラブルの対処法が分かる。	○できるだけ生徒の発言を引き出しながら進める。 ○自分でできることを増やすと同時に、自分が分からないことやできないことは何かを知ることが重要であることを強調する。		
20	○電気に関する実技を行う。	○蛍光灯、電球、電池等を交換することができる。 ○安全に気をつけて作業をすることができる。	○生徒の実態に応じて、蛍光灯、電球、電池の3グループに分ける。 ○生徒の実態に合わせて、物の名称や気をつけること等をプリントで確認してから実際に行う。 ○まず挑戦したうえで、難しいところは、支援を求めるように伝える。	【FHJ】蛍光灯の交換をすることができる。 【BE】電球の交換をすることができる。 【ACDGI】電池の交換をすることができる。	【全員】プリントで名称や気をつけることを確認してから、モデルを提示する。
5	○評価用ワークシートに記入する。	○各課題をふり返り、自己評価をすることができる。	○生徒が記入後、担当教員が記入し、今後につながる課題を絞って提示する。 ○「手伝ってもらいたいこと」と「自分が気をつけること」に整理して記入する。		
5	○本時のまとめをする。	○本時の取り組みをふり返り、次回の授業や家庭での実践に向けて意欲を高める。	○使用したワークシート等を参照する。 ○生徒に応じて、実際に家庭で挑戦したいか、何に気をつけるか等を確認する。		

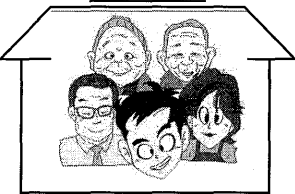
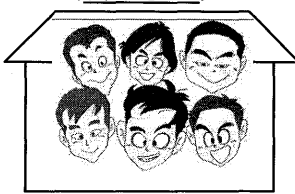

5) 評価（「調理」指導案の評価に準ずる）

1. 卒業したら・・・、どこで暮らす？ だれと暮らす？

みらいよそうず
未来予想図

1. 高等部卒業後、あなたはどんな仕事をしたいですか？（しますか？）

2. 将来、どこに（だれと）住みたいと考えていますか？ ○をつけましょう。

19歳	() じっか 実家 かぞく (家族と) 	() グループホーム なかま (仲間と) 	() アパート (ひとり) 
30歳	() じっか 実家 かぞく (家族と)	() グループホーム なかま (仲間と)	() アパート (ひとり)
50歳 以降	() じっか 実家 かぞく (家族と)	() グループホーム なかま (仲間と)	() アパート (ひとり)

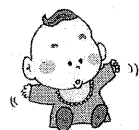
*「グループホーム」～ 一般の住宅で5、6人が共同生活をします。「世話人」がいて、食事の世話、お金や健康管理に関するアドバイス、その他日常生活相談や指導をしてくれます。2年生で行った「グループホーム見学」を思い出してみましょう。

3. あなたは、「結婚したいなあ」と思っていますか？

() 結婚したい () 結婚したくない () わからない



* 結婚したいと思っている人は何歳で？ () 歳

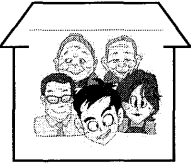
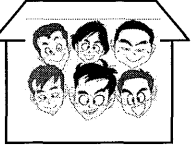
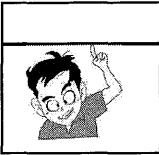


4. あなたは、「子どもがほしい」と思っていますか？

() ほしい () ほしくない () わからない

しょうらい
「将来のすまい」を想像してみよう
 そうぞう

1. 「^{じっか}実家」「グループホーム」「^{ちようしよ たんしよ}アパート（ひとりぐらし）」について、^{ちようしよ たんしよ}長所や^{たんしよ}短所
 などを^{かんが}考えてみよう。

<p>じっか 実家 ^{かぞく} (家族と)</p> 	<p>^{ちようしよ たの たす} 長所、楽しみなこと、助かること ^{かんが} などを考えてみよう。</p> <hr/> <p>^{たんしよ しんぱい こま} 短所、心配なこと、困ること ^{かんが} などを考えてみよう。</p>
<p>グループ ホーム ^{なかま} (仲間と)</p> 	<p>^{ちようしよ たの たす} 長所、楽しみなこと、助かること ^{かんが} などを考えてみよう。</p> <hr/> <p>^{たんしよ しんぱい こま} 短所、心配なこと、困ること ^{かんが} などを考えてみよう。</p>
<p>アパート (ひとり)</p> 	<p>^{ちようしよ たの たす} 長所、楽しみなこと、助かること ^{かんが} などを考えてみよう。</p> <hr/> <p>^{たんしよ しんぱい こま} 短所、心配なこと、困ること ^{かんが} などを考えてみよう。</p>

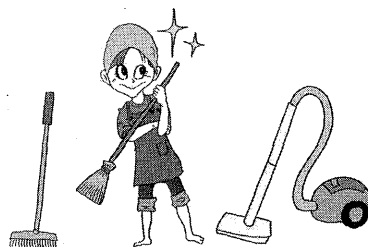
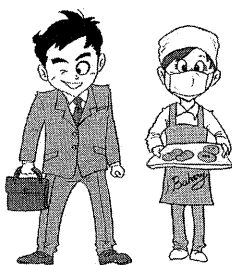
資料 20 「住まい」ワークシート

2. あなたが考えた「未来予想図」を実現するために、あなたがこれから「勉強したいこと」「知りたいこと」や「できるようになりたいこと」は何ですか？

【住む場所について】

【家事について】


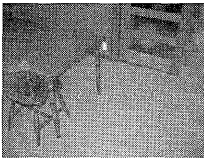
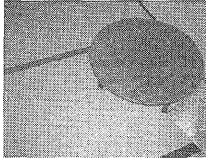
【その他：仕事やお金、人づきあいについて など】



資料 21 「住まい」ワークシート



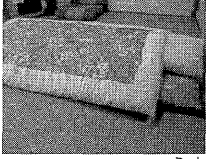
3. 人によって、好みや生活スタイルはさまざまです。当然部屋の大きさ、家具、その他置いてある物、洋室か和室かなど、人によって違います。あなたの「快適」を探そう！

フローリングの部屋って、かっこいいなあ。でも畳の部屋も落ち着くしなあ〜。あなたは、どっちが好き？



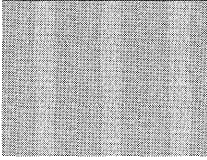
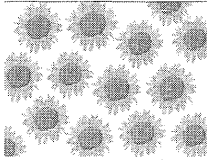
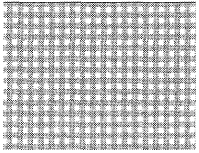
() フローリング () たたみ

睡眠はたっぷりとらなくちゃ！ あなたは、ベッド派？ それとも布団派？



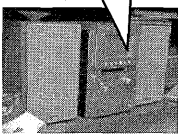



() ベッド () 布団

カーテンの色で、お部屋の雰囲気ってすいぶんちがうわよねえ。あなたの好みの色や柄は？

() 水玉 () たてしま () 花がら () チェック
 () その他 【 】

その他、快適に過ごすために自分の部屋に何を置こうかなあ？

テレビ、ビデオ
 CDプレイヤー
 スポーツ選手のポスター
 芸能人のポスター
 生け花
 好きな絵や家族の写真
 ほかにいろいろ考えてみよう！

ぶっけん さが 2. 物件を探そう！

1. 自分の好みの物件を探す前に、まずこれだけは知っておこう！

ぶっけん 物件 : 契約をして借りたり買ったりする ()

けいやく 契約 とは、当事者（この場合、物件を売ったり貸したりする人と、物件を買ったり借りたりする人）の意思表示がぴったり合って成り立つ法律が認める行為です。

やちん 家賃 : 家や部屋を借りて使用することに対して、
()

★家賃は一ヶ月に一回、約束した日までに払います。

★入居する際に、「敷金」「礼金」をいう家賃とは別のお金が必要な場合もあります。「敷金」「礼金」のトラブルもあるので、必ず家族や信頼できる支援者に相談しましょう。

まど 間取り : ()

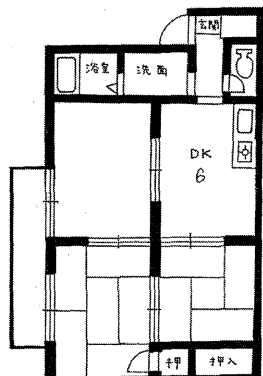
ワンルーム : 居室と台所に仕切りがないもの

L (「エル」＝「リビング」) : **いま 居間、リビングルーム**

D (「ディー」＝「ダイニング」) : **しょくじ 食事をする部屋**

K (「ケー」＝「キッチン」) : **だいどころ 台所**

UB (「ユービー」＝「ユニットバス」) : **ふろ お風呂、トイレ、洗面台が一体化した(区切られていない)部屋**



ちくねんすう 築年数、(築後年数) : たてもの 建物が建てられてからの年数

とほ 徒歩/バス : ある 歩きやバスに乗って、一番近い駅までかかる時間。職場への通勤時間等も考えて選びましょう。

資料 23 「住まい」ワークシート

2. インターネットやパンフレットなどを見て、自分が住みたいと思う「物件」を選びましょう。

やちん
家賃

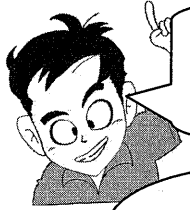
もよ えき
最寄りの駅

まど
間取り

えら りゆう
選んだ理由

【インターネットで調べたものや、パンフレットの切り抜き等をはりましょう】

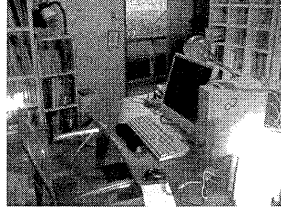
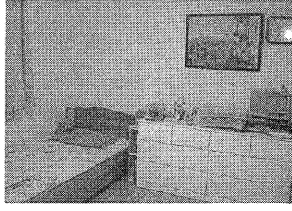
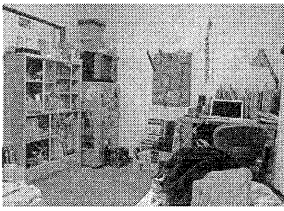
3. 一人ぐらしに必要なものは・・・？



いい物件も見つかって、契約もすんだし、いよいよ一人ぐらしが始まるぞ～！楽しみだなあ～！



ちょっとまって～。住む部屋は決まったけど・・・。
生活を始めるためには、色々なものが必要よね。例えば・・・



1. 生活するために必要な家具や家電などを書き出してみよう。

居間・自分の部屋では？

台所では？

洗面所では？

その他の部屋では？

資料 25 「住まい」ワークシート

2. 生活に必要な家具や家電は色々ありますね。大きさやデザイン、機能、そして値段もさまざまです。カタログやインターネットを見て、自分が欲しいと思う生活に必要な家具や家電を調べてみましょう。

しら
調べたもの:

ねだん
値段:

う
売っているところ:

【インターネットで調べたものやカタログの切りぬぎやはりましょう】

資料 26 「住まい」ワークシート

3. 下の図は、最低限そろえたい生活に必要な家具や家電の一例です。

例

冷蔵庫 22,000円

シングルベッド 25,000円

洗濯機 23,000円

テーブル 5,000円

3合炊飯器 5,000円

14型テレビ 12,000円

電子レンジ 9,800円

ファンヒーター 9,800円

玄関 UB 押入 洗面所 6畳 ベランダ



全部で111,600円もかかるわ~!?

ダンスや収納ケース、CDプレーヤーやDVD

デッキ、整理棚も欲しいけど…お金がかかるなあ~。

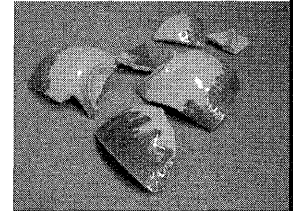
リサイクルショップや100円ショップを使って、節約しよう!



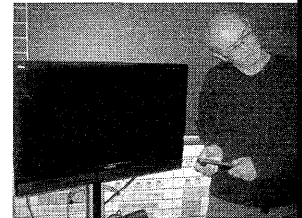
4. すまいのトラブル Q & A

1. 生活を送るうえで、色々なトラブルや困ってしまうことがあります。今までは、あなたが知らないうちに家族の誰かが、いつの間にか解決してくれたこともたくさんあると思います。こんな時、あなたならどうしますか？

Q1 「あっ、コップを落として、割っちゃった！」あなたならどうする～？



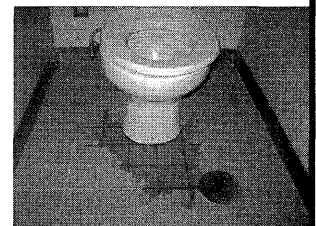
Q2 「あれっ、リモコンのボタンを押しても、テレビがつかない！」あなたならどうする～？



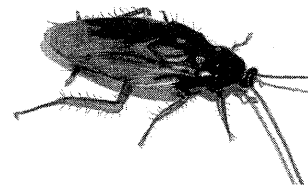
Q3 「スイッチを押しても、電気スタンドの明かりがつかない！」あなたならどうする～？



Q4 「うわあー！ トイレの便器の水が漏れている！」あなたならどうする～？



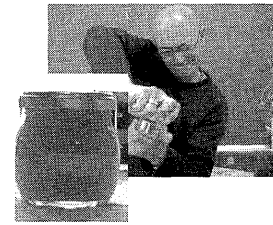
キュー Q5 「台所に、ゴ、ゴ、ゴキブリ発見！」あなたならどうする～？



キュー Q6 「おいしい唐揚げができたと思ったら、きゃー、油をこぼしちゃった。」どうする～？



キュー Q7 (おまけ!) 「ジャムの瓶が固くて、回せないよ～。」あなたならどうする～？



* ここで考えたことは、ほんの一部です。家庭での生活で、「困ったなあ」「おかしいなあ」と思った時は、そのままにせず家族にどんどん質問したり、相談したりしてみましよう。

* 「自分でできること」を増やそう！それと、もう一つ大切なことは「自分ができること」「助けが必要なこと」をあなた自身が分かっていることです。そして自分から支援者に助けを求めたり、相談ができる「大人」を目指しましょう。

* 家具や家電を買ったお店、家の近くの電気店、ガスや水道設備の業者、便利屋等の電話番号をまとめて控えておくと、困った時にすぐ連絡をとれるよ。

5. 安全！安心！なすまい

あんぜん
「安全」とは・・・？

きけん め
危険な目にあったり、ケガをしたりしないこと。

あんしん
「安心」とは・・・？

き も お
気持ちが落ちついて、リラックスできること



ぼうはん ぼうさい そな いえ かぞくこうせい せいかつ
防犯、防災の備えは、家のつくりや、家族構成や生活スタイルなど、かていによってさまざまです。今日は、2つのポイントにしぼってがくしゅうしましょう。

1. 学校探検

みんながふだんきづかないところにも、ぼうはん ぼうさい たいさく
防犯や防災の対策はいろいろなところにあります。いろいろさがして、そのやくわりなどをかんがえてみよう。

防犯カメラ

チェーンロック、なんきんじょう (カギ)

けいびがいしゃ
警備会社のセキュリティシステム

ひじょうしょく
非常食

さすまた

しょうかき
消火器

しょうかせん など
消火栓 など

2. 地震対策

さくねん3がつ おお じしん いえ
昨年3月、大きな地震がありました。あなたの家では、どんなじしんたいさく
地震対策をしていますか？

かくてんとうぼうし
家具転倒防止のための金具やつっぱり棒

ひさんぼうし
ガラス飛散防止フィルム

たなの上のほうに重いものやガラス製品を置かない

げんかん せ たか かく お
玄関に背の高い家具を置かない

ひじょうぐち かくほ
非常口の確保

ひなんけいろ ひなんばしょ かくにん
避難経路や避難場所の確認

ひ じょうよう ふくろ
●非常用もちだし袋 (リュックサックに入れて用意しておこう)

- 貴重品 (現金・通帳・印鑑・権利証など)
- 飲料水 (一人一日3リットル) 3日分程度 □食料 (乾パン類など)
- 懐中電灯 □予備電池 □携帯ラジオ
- マッチやライター、ろうそく
- 救急セット (包帯、三角巾、脱脂綿、消毒液など)
- 衣類 (下着、セーターやジャンパー類)
- 防災ずきん、ヘルメット □防じんメガネ □軍手 □タオル
- 缶切り □ポリ袋 □トイレトーパー □雨具
- ナイフ □歯磨きセット

★下の写真は、ある先生の4人家族の例です (この他にもう一つ非常食が入ったリュックがあります。また寝袋やキャンプ用のマットもすぐ持ち出せるように同じ場所にしまっています)。どんなものが必要かいっしょに考えてみよう。みなさんも家庭で確認してみてください。



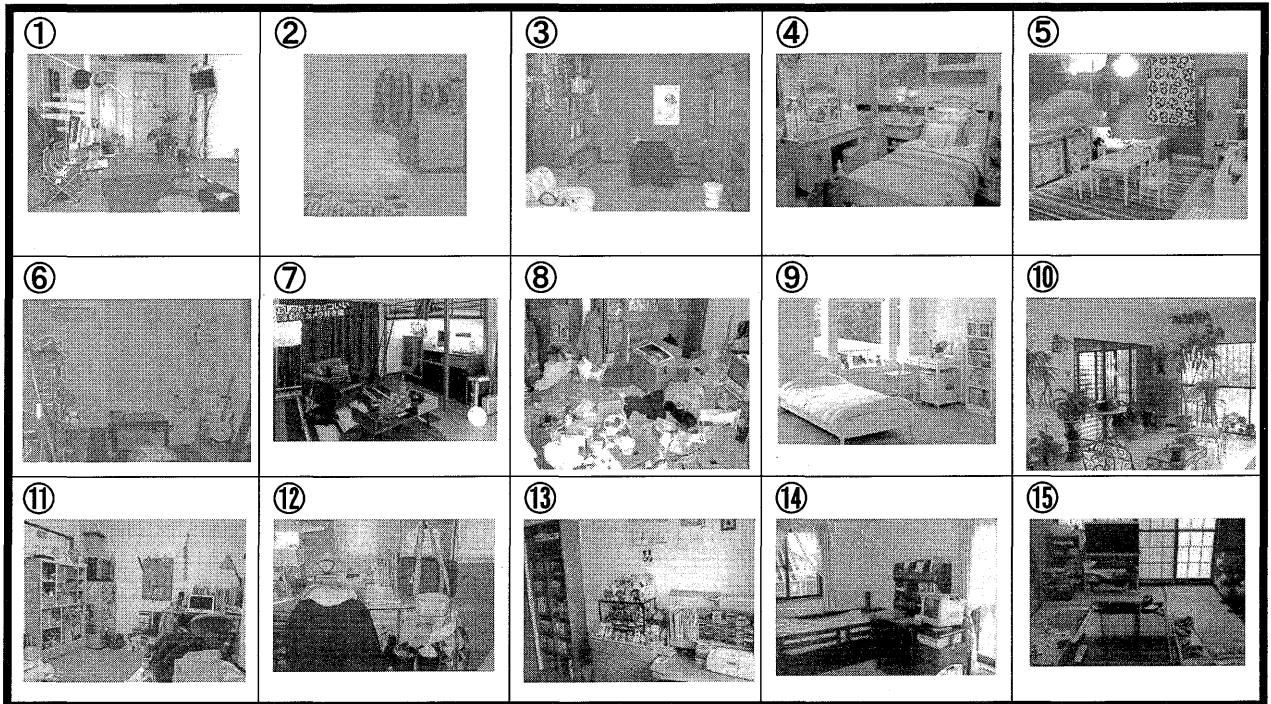
6. 自分らしいすまい

わたしの理想の部屋

「住まい」の学習の始めに、写真を見て住みたい部屋を選びました。これまでの学習をふまえて、あらためて自分が住みたい「理想」の部屋を考えてみましょう。

実際の現在の自分の部屋とはずいぶん違うかもしれません。でも「私はこうしたい」

「私はこうなりたい」と考えをもつことは、生活にはりをもたせ、仕事に打ち込むためにも大切なことです。



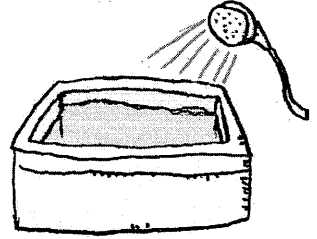
わたしの理想の部屋は () 番です。

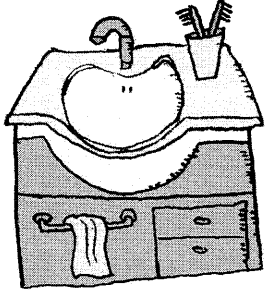
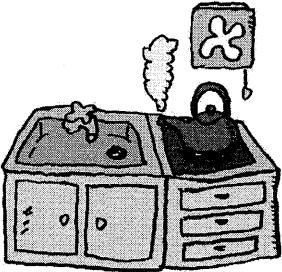
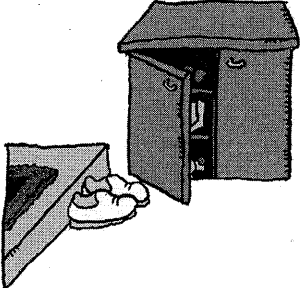
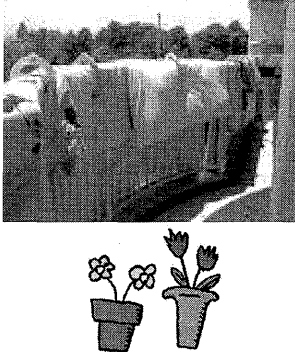
今のあなたの部屋を、理想の部屋に近づけるために必要なもの、ほしいものは何ですか？

わたしができること、かぞく やくわりぶんたん家族の役割分担

これまで、3年間の「住まい」の授業を通して、「健康的で快適な住まいをつくる」ための学習をしてきました。掃除のやり方など自分でできることや、知っていることも増えました。高等部卒業後は、お家の人の「お手伝い」ではありません。一人の「大人」として、家族のなかの役割として、自分のできることを家族のためにできるようにしましょう。

下の表に、自分ができるところを書き込みましょう。卒業後のことも考えて、家族と相談して、「いつやるか？」も考えてみましょう。

どこ？ なに？	自分ができること	いつやるか？
<p><small>きよしつ</small> 居室 <small>いま じぶん へや</small> (居間、自分の部屋)</p> 		
<p><small>ふろば</small> 風呂場</p> 		
<p>トイレ</p> 		

<p>せんめんじょ 洗面所</p> 		
<p>だいどころ 台所</p> 		
<p>げんかん 玄関</p> 		
<p>ベランダ</p> 		

*ワークシートは、この後、「電池、電球、蛍光灯」「布団、ベッド」「防虫、防カビ」「冷暖房器具」「その他」と続きますが、ここでは省略します。

6. 自分らしいすまい②【彩り】

住まいを自分らしく彩る

これまでみなさんは、「快適で健康的なすまい」をつくるために、色々な学習をしてきました。今日は最終回です。最後の仕上げに、自分の住まいを自分らしく飾ってみましょう。自分の好きなものを置いたり、思い出の写真を飾ったり、好きな絵を飾ったりするとなんだか楽しい気分になりませんか？ また日本には、豊かな四季があります。季節の花を飾ったり、その季節や年中行事にちなんだものを飾ったりすることで季節を感じ、生活にもメリハリがついてくるとお思います。

今日は、実際に女子は、お花の買い方、生け方、男子は額の飾り方、フックの付け方などをやってみましょう。

【例：〇〇先生の家は、手作りのものでいっぱいです】

